明治四十二年八月十五日發行（毎月一回十五日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

夏期講習會號

明治の女子

第六巻

第七號

要目

明治の女子　第六巻　第七號

目次

本號は七八兩月の號を合したるものなり。

部數	定價(郵稅共)	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

明治四十二年八月十四日印刷
明治四十二年八月十五日發行

東京市麴町區土手三番町十五番地
發行兼編輯人　エー、シー、マクドナルド

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人　島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所　三秀舍

明治の女子　第六巻第七號　（明治四十二年八月十五日）

修養の統一

舊時代の家庭に育ちたる婦人を見るに、其の家柄に隨ひて自ら一定せる修養の型ありて、武家は武家の風あり、商家は商家の風ありて、各々其の美はしき特質を發揮したり。固より其の暗黑面もありしに相違なかりしも、其の善き處も鮮明に顯れ居りしことは事實なり。然るに維新後四民平等の世となり階級の別廢れしより以來、國民一般の智識の程度は次第に上進せる一方には、或る一つの階級の中に養はれ生長したる氣風特色は次第に薄らぎ行くは致方なき次第なり。然して賤しき社會に生長し精神上の修養に乏しき人々が、一朝時世の變動に乘じて青雲の上に昇り社會上流の地位を占め、西洋各國の如く紳士淑女たる品位なき人々が紳士淑女として時めくに至りしより、眞の品格ある社會を上流に見るを得ず。且つ健全質素の德を護るべき筈の中等社會が、滔々として上流社會、品位なくして富ある上流社會の風を模するを事とするより、生活と趣味と一致し、地位と品格と釣合へる統一の美は容易に見るを得がたくなり行けり。之に加ふるに教育上に於ては西洋の學問未だ圓熟融化の域に達せず、純粹なる歐米人の生活氣風充分に紹介せられずして反つて彼の國にても品位の高からざる社會の服裝や風氣を見習ひて之を西洋風なりと心得る者多し、又直接に西洋の女教師等の教育を受けたる人に於ても、其の教師たる人々が存外に本國に於ては品位に乏しき社會に屬せる事なきにしもあらざれば、日本舊來の美風より見れば擯斥せらるる如き習慣を教へ込まるる事も少からずと見ゆ。例へば金錢の事など斯く〳〵するが文明國の風なりと思へる者ある樣子なれども、一たび彼國に遊び品格ある家庭に養はれる人々に接し見れば、此は全く考へ違ひにて彼の良き部分の風俗は反つて我國在來の美風と同一なるを發見して意外の感を起すこと珍らしからず。兎にも角にも今日我國の狀態は萬事萬端混淆の時代にして致方もなき事ながら、此の時代の教育を受くる青年男女は戒心して成るべく其の弊を受けざる事を注意すべきなり。之に就きて思ふに宗教なるものは修養の中心點にして眞の信仰ある者にして初めて品性の統一を維持し得べき事これなり。信仰は主義なり生命なり。此の主義明に此の生命活潑なれば、趣味自然に高尚になり、判斷力自から銳敏になりて、其の氣風修養に統一を生じ來り、何人の目にも卑しからず見ゆるに至るべし。此の如くして初めて我國に眞の紳士淑女、眞の上流若くは中流の社會を造り出すことを得べけん。此を成すには信仰進み心

操の高く美はしくなることは第一の要件なるが、之に次ぎては良き人に接しその人品氣立より自然の感化を受くることと大切なり。又差し當りかかる人物に接するの機會の乏しき人は良き書籍を讀み、良き文學に親しむならば、良き人に接すると同じ益あるべし。是に於て心靈に蓄積あること肝要なり。

蓄積ある心靈

統一とともに必要なるは蓄積なり。否蓄積なき處に統一あり得べからず。統一すべき材料を蓄積して然る後之を統一するなり。「底ひなき淵やはさはぐ山川の淺き瀬にこそあだ波は立て」と昔の人の歌にもある如く、深き素養ある人の心は自から靜かにして纒りのあるものなり。基督者が毎日曜日に說敎を聽き其の他の集會に列り、家に在りては日々聖書を讀み祈りをなす、信仰なき人より見れば隨分繁多なる業にして、一度か二度にて足りぬべきにと異まれぬべし。然れども此の如くする中に我等の心靈の富は積まれつつあるを知らずや。耶蘇の言に「誰にても渴かば我に來りて飮め、我を信ずるものは活ける水の河その腹より流れん」と耶蘇は敎へたまへり。然して活ける水の河は一朝偶然にして流れ出づるものにあらず。相當の理由あつて發するなり。その理由とは即ち平生の蓄積にして、山地に降りそゝぐ雨の一滴一滴が集りて遂に大なる河をなす如く、日又日年又年聽き學び感じ決心したる事が重なり〳〵て遂に聖靈の力に依り發して人を拯ひ世を淸め得る感化とこそはなるべけれ。然れば耶蘇は又「蟲くひ銹くさり盜穿て竊ざる所の天に財を蓄ふべし」と云ひ給ひしなり。蓄積はなるべく豐富なるべし。朝顏を作る人が幾十幾百と云ふ種類を集めて樂しむ。其の嗜好なき人より見れば左まで多く集めずとも事足りぬべしと思はるれど、其の道に入りし人は之にても尙ほ乏しく思ふならん。學者が種々樣々の書籍を買ひ集めて秘藏す。門外漢より見れば一種の贅澤なり道樂なりと思はるれど、當人に取りては此等の大部分は必要品にして、或る問題を調べ若くは著述を作さんとする場合には平生貯へ置きし古書斷編と雖も皆その效をなすものなり。精神上の事も亦然り。平生聞きたる說敎や、記憶せる聖書の言が事に臨みて案外力となるものなり。耶蘇が野にて誘惑を受けし時三度までも聖書の言を引きて武器となしたまひし如き、平素の心掛なくば到底かゝる不時の用に立たざるなり。蓄積すべきものを尙ほ二三の個條に分ちて云へば第一は記憶の蓄積なり。人を墮落せしむるは記憶なり、惡しき話や野卑なる書籍の記憶なり。人を善くするものも亦記憶なり。記憶は一の聖き宮なり。然ればアウガスチンはその懺悔錄の中に壯麗なる言を以て記憶の神聖なるを讚詠したり。次には思想の蓄積なり。思ひ内にあれば外に表る。常々良く思ひ良く慮り豐かなる思想を心の内に蓄へ置かざるべからず。第三は習慣の蓄積なり。總ての蓄積が習慣とならずば未だ安全なりと云ふべからず。良き習慣は重き病にも勝つを得るべし習慣に依りて人は或る罪惡には誘惑せられざるものとなる。

習慣に依りて其の心操も立居振舞も勉めずして自から高尙に且つ美はしくなり得べし。故に蓄積と統一は何處までも互に手を取つて進むものなり。

夏のめぐみ

獨逸の神秘家スウソオ（第十五世紀の人）の言に曰く、

「夏に於て麗しき太陽はいかに曇りなく且つ快げに昇り、いかに勉めて生長と祝福を土地に與ふるよ、いかに美しき花は笑めるよ。如何に森と野と牧場は鶯とさまぐの小禽の歌にて相答ふるよ。如何に冬の間閉ぢ籠められたる動物は出で來り相駢びて步めるよ。如何に少き人も老たるも喜ばしげに其の嬉しさを表せるよ。あゝ柔かなる神よ、汝の造りし物に於てすらかく愛らしくあるならば、汝自身に於ては如何ばかり愛すべからん」。

人の敎育は休止せらるる時も神の敎育は休なく行はる。聽け、野に、山に、雷に、波濤に、瀧に、鳴く蟲に、沈む夕日に、充つる神の御聲を。

第三回夏期講習會

七月十三日より同十九日に至る間羽田村要館に開かれたる我が女子靑年會の夏期講習會は來會者百七十二人に上り、昨年及び一昨年のそれに勝れる好結果を收め得て感謝と滿足を以て結了することを得たり。其の席にてなされし講演の大部分は本誌上に收めあり。我等はすべてこの會に多大の勞力を貢献せられたる人々に感謝して其の勞の空しからざりしを喜ぶ。

靜思の友

人生の道づれ

大谷秋浦

エルサレムよりエマヲに通ずる街道に二人の旅客あり。彼等は何事か深き憂を心に包みけん、「歩みつゝ、互に哀み談り合ひ」しが、何處よりとも知らず一人の旅人途中に現はれて彼等に話し懸けぬ。彼等が後に互に語るところによれば其人の一言一句肺腑に徹し何となく彼等の心燃ゆる思ありき。夕方にエマヲの邑に着けり。彼等は其人と別るゝことを惜しく思ひ、行き過ぎんとするを强ひて引き留め己が宿に請じ入れぬ。思ひきや其人はイエスにてありき。

これは路加が傳ふるところの（二四の一三—三二）イエス復活りたまひし日の出來事なるが、二千年前の昔譚にはあらで現に我等各自が身の上の事實なり。我等もみな人生てふエマヲ街道の旅客にあらずや。而して我等が旅路は決して安らかならず。古の人も今の人も「互に哀み」人生の行路難を談り合へり。此憂繁く惱多き旅路に於てイエスは屢々現はれたまひて我等に

出逢ひ、我等の心に談りたまふ。而して古のエマヲ途上の二人の如く我等の心は屢々燃ゆるもあらずや。

何人も其心の底に一種の寂寞を藏さゞるものなし。此寂寞は理想が我等の心に投ぐるところの陰影なり。理想高ければ高きほど其影は暗く且濃し。是故に我等が心を蔽ふ暗き陰影に驚き寂寞の感に充たさるゝとき、眼を止めて見よ理想の姿はおぼろげに現はれ來らん。而して見るに從ふて益に鮮かに遂に日星の如く燦として輝くに至るべし。暗は光なり。暗を感せざるものは光を見る能はず。物の哀れを解せざれば終に人に心なし。我等が旅路の友は悲哀なりと思ふとき、何ぞ知らんイエスは我等の道づれとなりたまへり。昔者聖フランシスは己を献くべき祭壇なき寂寞を悲みしが、一夜月明に乘じて友と浮かれ歩るき、獨り群を離れて恍然我を忘れて月に眺め入れるとき、其友彼の肩を叩きて御身は如何なる佳人をか思ふと戲れければ、彼は靜に又嚴に我は御身等の思ふよりも遙かに麗はしき佳人を慕ひ焦るゝなりと答へたりと云ふ。フランシスがイエスの慕ふべき姿に接せしは、淸き月の光の中にはあらで暗き心の陰影の裏にてなりき。

人事意の如くならず。願ふことはかなはで願はざる事のみ身に起り來るは人の世の常なり。或は圖らずも重き疾病にかかりて病床に呻吟するものもあらん。或は親兄弟を失ひて哀傷の涙に暮るゝものもあらん。誰か世に悲哀の經驗なきものやある。定なき世に悲哀のみは人の世の定なり。されば彼の人生の光明の側面のみを見て暗黑の側面を見ざらんとせしと傳へらるゝ詩人が作にも、若き人生の涙は籠れり。此世は生くるに甲斐あるかとは幾度か繰り返へされたる問題にて、今尙繰り返へされつゝあり。近世の厭世哲學の預言者ショオペンハウエルは云ひぬ。「各個人の歷史は唯苦痛の歷史なるのみ、人の一生は概ね薄倖不運の連續たるに過ぎず。ハムレットが獨語の眞意義は約むれば斯くぞならん。曰く我等の有樣は斷じて全滅の優れるに若かざるほど、淺ましくも憐れむべきものなりと。」……人生傷心の一に數へられたる短命は、恐らくは絕好の賜にやあらん。……生命は約束をなせども決して守らず。望みしことの如何に望ましからぬことに終るぞ首めに希望あり。次で希望は失望を生じ、生命は唯取り去らんとてのみ與ふ。遠くより望めば樂園とも見えて我等の心を魅すれども、近づけば幻の如く消へ去る、是故に我等の幸福は常に未來と過去とにあり。現在は宛から風に逐はれて平原に漂ふ日光に照らされたる黑雲の如し。其の背には日光あれども其下には常住の陰影あり。是を以て人生は常に不滿あり。行方は定かならず、越方は復すに由なし。……人生の結構は何物も我等の努力に値するのなし」と。此絕望の聲は彼によりて初めて唱へ出されしにあらず。古の「傳道者」は一層强き辭を以て人生の空なるを叫びぬ。されど彼は信仰の光に照して人生の深き意義を見出しければ、暗を變へて明となし哀傷を變へて歡喜となせり。

悲哀は嬉笑に愈る。そは顏面に憂を帶ぶるなれば心善に向へばなり。賢き心は哀傷の家にあり。愚なるもの丶心は喜

樂の家にあり。愚なるものゝ笑は釜の下に燃る荊棘の聲の如し。是亦空なり。(傳七〇三ー六)

人は悲哀を經驗して其の眞情こゝに流露し、其の汚れたる心清められ、其の卑き心高くせられ、隱れたる神の肖像光を放ち來る。悲哀は我等が神より與へられたる貴き課程なり。憂節繁き人生の旅路を「互に哀み」ながら覺束なくも辿る人よ汝が道づれは悲哀にあらずして姿を變へし基督なるを思へ。

実傳

『我が住む世界』

ヘレン、ケラアの實驗談

▲盲にして聾なり●●●●●●● ヘレン、ケラアは曩きに「我が生涯の話」と題する自叙傳を著はし、廣く世界に讀まれたことである。彼女は千八百八十九年の七月二十七日米國北アラバマの小邑タスカムビアに生れた。生後一年ならずして病に犯され、遂に明を失し、加ふるに耳聾ふるに至つたのである。然かし非凡なる才智と精力とを有する彼女は、高等の教育を受け、カレエジに入りて勉學し、語學は自國語の外獨逸、佛蘭西の兩國語を知り、又グリイキ語にも通じて居るといふことである。其の他百般の學術に通じ、殊に文學に精しい。而うして彼女が斯の如く理性の開發して行く有樣、外界の事物に對する智識の進む工合などは、「我が生涯の話」のうちに詳しく記してある。兒童の教育に注意するものは是非此の書を一讀する價値があると云はれて居る。此書は我國にも「我が生涯」と題して飜譯されてあるから、今は其の生涯について述ぶることを廢め、彼女が其の後に著はした「我が住む世界」數節を摘錄して、盲にして且つ聾たる彼女の世界は如何なるものであるか、彼女は如何にして世界に接し、又如何に之を觀じつゝあるかを窺はんと欲する次第である。

▲見る手●●● 人は目を以て物を見るであらう。されど目の力を失つた彼女は何を以て物を見る。彼女は「見る手」なる語を用ゐて居る。曰く「私の手は皆さんの見聞せらるゝ目や耳のはたらきをするのです。大體から云へば私共は同じ道を旅し、同じ書を讀み、同じ言語を話すけれど、私共の經驗は異つて居る。私は來るも行くも、回旋點の如くすべて手に歸するのです。私を男女の世界に結び付けるものは手です。手は孤獨の間、暗黒のときより或るものに達する私の感覺者です。私の指が巡り合ふだけの色々の快樂と活動とを捕へる。他人の手から私の手に滴る僅かの言、指の微な震動によりて、適宜な智慧と快樂と生活の充實とを得るのです。ヨブの如く私は手が私を造り、私の靈魂を鑄型に入れて造つたやうに感ずる」と。又曰く「理想は私共の住む世界を造る。而うして印象は理想を造る。私の世界は色と音とを缺ける觸覺によりて建てられる。然かし色と音とがなくとも生命を呼吸しまた之によりて鼓動し得る」と。彼女は只指先の微な作用で

ソロモンの神殿の美と莊嚴とを心に會得するのである。想像は彼女の世界に於ける大いなる要素である。「想像なくば我が世界は如何に憐むべきぞ」と叫んで居る。

▲他人の手　『私は詩篇の作者が「我は常に主を信ず。其の手我を護らば、我安らかに住はん」と力を罩め喜びを滿たせて聲高く歌ひ得たてとを完全に了解する。また人の手の力に於ても、神的なる或るものがある。愛する目の一瞥は隔りたる處より他のものの心を動すと聞く。然かし愛する手の接觸は何等の隔りもない。……人の手の相違を考察するは興味あることです。生命に滿みたものもあれば、精力の溢るゝものもあり、靜平なるもあれば、快活なるもある。……然かし愛すべき手を私は決して忘れない。私は温和にして剛健なる人の愉快に滿ち溢れたるブルックス監督（ケエラは宗教上フヒリップス、ブルックスに負ふところが多いのである）の大きな手を私の指のうちに記憶する。皆さんのうち耳聾して盲目なる方があつて、ジエフアソン氏の手を握られたならば必ず是まで知られたものと異なつた顏を見、また親切なる聲を聞かれるであらう。マアク、ツワインの手は奇想と滑稽とに滿ちて居る。皆さんが之を握つて居られるうちに、其の滑稽は同情と優勝とに變る』。

▲魔術的接觸　「若し醫者が大いなる性格を有する人であるならば、其の手を患者に觸れることによりて、精神上の癒しを與へるであらう。此の魔術的接觸の幸福は、病ひのときにも、健康のときにも、私共の醫者たる 私 の愛する友人の手のうちにある。彼の愉快なる精神は、藥の必要と否とに拘らず、其の患者の爲めになる」。

▲手の美　「顏に樣々の美がある如く、手の美も樣々ある。接觸は無限の歡喜である。個人性の強い、感情の鋭い人の手は、驚くべく變り易い。其の指の先をちよつと觸れたのでもすぐ思想の夥しい形を現はす。また時々私は丁度皆さんが高等の敎育を受けた人の手續に於て見ねばならぬやうな美と差別とを現はす美しく快よく柔い手に觸れることがある。私は美しい小供が觸つたときの心持を皆さんの知られんことを望む。彼等は野べに咲ける人間の花です。其の指は言の花の如く動く」。

▲足踏　ケエラアはまだ他人の足踏によつて其の人爲りを判じ得た。固より其の音は聞えないが、其の足踏の震動によつて年齡を判ずるのみならず、男女の差別をなし、其の歩き振りまで察した。曰く「或る日旅館の食堂に於て私は感覺に異狀があることを認めた。私は靜かに座して、足を以て注意して居た。すると二人の給仕が彼方此方に歩んで居る、然かも其の歩調が等しくないことを發見した。樂隊が音樂を奏して居る。私は床に沿ふて響く音樂の波動を感ずることを得た。一人の給仕は樂隊につれて、快活に足拍子を取つて居る。他の給仕は音樂などに無頓着て、胸には何か不安の波動を湛へつゝ食卓から食卓へと廻つて居る。其の足踏は宛かも宮廷の馬と元氣に滿ちた軍馬との相違を思ひ起させた。屢ば足踏によりて其の人の性格や態度の幾分が現はれる。私は之によ

りて確實と不確實、性急と深慮、活潑と怠慢、疲勞、不注意、憶病、忿怒、及び悲愁を感ずる。私は懇意な人々の此等の態度と特徴とを殆んど意識して居る」と。（志良爲）

折りにふれて

大木錦子

梅雨の歌のうちに

さみだれのふる河のへに舟はあれど
　釣る人もなし雨のこのころ

さみだれの雲まだはれぬ夏山の
　青葉の上をなくほとゝぎす

伊香保へものしけるをりに

船尾瀧

天の川みなきり落つとみるまでに
　雲よりかゝる船の尾のたき

稲荷山

いなり山朱のとりゐのかすみえて
　きりはれぬなりをちの杉村

物い聞山

なにしおはゝ都のこともかたらなむ
　ものきゝ山になくほとゝぎす

夏期講習會　講演

祈りの修養

神學博士　井深梶之助

（此は十八日の日曜日の朝夏期講習會にて說敎せられし大意を筆記せしなり未だ校閲を經ず、S.）

「耶蘇某所にて祈禱しけるに畢りしとき一人の弟子いひけるは、主よヨハネ其の弟子に敎へし如く我らにも祈ることを敎へたまへ。耶蘇曰ひけるは祈る時は斯くいふべし、天に在す我らの父よ、願くは聖名を尊崇させたまへ、爾國を臨らせたまへ、爾旨の天に成るごとく地にも成させたまへ、我らの日用の糧を毎日に與へたまへ、我らに罪を犯すものを總て免せば我等の罪をも免したまへ、我らを誘惑に遇はせず悪より救ひ出したまへ」（路十一〇一―四）

此の本文に基づきて祈りのことを話したい。殊に今日は主の日にして、禮拜の時なれば祈りについて考ふることは適當と思ふ。

說敎はなくとも禮拜にさし支へはない。然かし祈りなくは禮拜はない。基督者の生涯は神の導きによりて信仰の生活を歩むものである。其の神と我との交通なる祈りは基督者の生涯に缺くべからざるものである。只祈りが必要なるのみならず

其の道理をも辨まへ、祈りの精神を次第に發達させねばならぬ。余は近來此の必要を切に感じて居る。

此記事を見れば耶蘇は某所にて祈られた。そこで一人の弟子が之を見て我らにも祈ることを敎へよと請ふた。當時耶蘇はまだ其の名聲の揚らないときである。某所とあるは何所であつたか、其れも解らない。推測するに其れは或る一ケ所と云ふ意ではなからう。弟子は常に耶蘇について其の傳道せらるゝ模樣から、奇跡を行ひ、病人を淸められることを見て居た。取り分け熱心に祈らるゝことに氣が付いて居たであらう。耶蘇の生涯は祈りの一生であつた。此の點に注意して福音書を讀まば耶蘇が自身の爲めに祈られたことは甚だ多い。路加傳の第三章には朝まだき人靜かなるところにて祈られたとある。其の場合は如何なるときであつたかと云ふに、ガリラヤ國中を巡回して神の國を傳へんとする前夜のことである。彼は其の大なる使命を齎らす前に心を潜めて神と交はれた。また馬太傳十四の二十三を見れば多くの人々が其奇跡を見んとて附き從へるを歸らせ、夕陽斜ならんとする頃、ガリラヤの湖を渡らんとするに方り、俄かに大風が吹いて起たので耶蘇が一言の下に之を靜められた其の前夜のことである。路加傳第十二章には夜もすから祈りて、十二人を撰び傳道を助けしめられたこともある。夜もすから祈り明かして神の國の建設の基を開かれたのである。また耶蘇は愈々此の世を去らんとするとき、三人の信用せる弟子を伴ひてゲッセマネの園に行き、三人を留め置きて自分は獨り林のうちに進み、若し御心に適はゞ此盃を我より離したまへと三たびまで祈られた。十字架上に於ても己れを迫るもの爲めに祈り、また其の靈魂を天の父に托して此の世を去られた。實に彼の生涯は祈りの生涯であつた。大切な事を定められるときには必ず祈られたのみならず、大事件の後にも祈られた。山に海に野に、何所にでも神に祈られた。朝まだき、又は夕暮、いづれの時、いづれの場所に於ても祈られた。斯る耶蘇の祈りを常に聽いて居た弟子は、先生が斯く祈らるゝから自分も然うしたいものである、ヨハネが其の弟子に敎へた如く我等にも敎へよと願つた。ラビは祈りを書いて敎へる習慣があつた。耶蘇の祈りに刺激せられて其の弟子たちは祈り初めたのである。然かし如何に祈つてよいか解らない。曾て新島襄氏が初めて日本に歸られたとき、「存じ奉り候」といふやうな手紙の文體で祈られた。氏は米國で信者になり、常に英語で祈つて居られたのであるから日本に歸つて祈るときに困られたものであらう。今日でこそ一定の祈りの辭が出來たが、當時は何う云ふ風に祈てよいかわからなかつたのである。最初の弟子たちも矢張り祈りの言を知らなかつた。然かし其の幼稚な願ひが却つて天下後世に意味深長なる祈りの標本を與へらるゝことゝなつた。爾來幾百萬の人が毎朝同じ祈りを捧げて居ることであらう。日曜學校の生徒も、重き病の床に居るものも、日本に於ても、朝鮮に於ても、支那、印度、歐米に於ても幾百の言に飜譯されて同じ心で祈つて居る。

今其の祈りの大體につきて話したいと思ふ。是は簡單にして

自然なものである。されど之を調べると秩序整然として居る。即ち三段に分れて、其の前後に名宛てと頌榮とがある。

「天に在ます我等の父よ」祈りは天の父に向つて申す言である。此の一言のうちには汲み盡すこと能はざる深き意味がある。パリサイ人は巷にて長き祈りをした。耶蘇は之を戒められた。今日の基督者のうちにも神に祈るか、聽衆に云ふか解らぬやうな祈りをするものもある。熱心で能辯なものもある。此等は神に向つて祈ることを忘れたからである。祈りは獨語てはない。或人は祈りを以て自分に向つて云ふものとなし、己が決心を促がし、また精神を修養するものに過ぎずと考ふるものもある。されど、耶蘇は天の父に祈るべきことを教へられた。天の父とは肉身の父に對せる語である。我らの父とある。我等人類は一人の父の下にある兄弟である。貴賤上下の別なく父の前に跪いて祈るのである。全人類は神に肖せて造られ、養はれて居るものである。

第一部の「聖名を尊崇させたまへ、爾國を臨らせたまへ、爾旨の天に成るごとく地にも成させたまへ」とあるは如何なる意味であらう。基督者の祈りは立派なものである。自身の安全や、一家の繁昌幸福を祈ることが悪くはないが、第一に祈るべきてはない。先づ神の名を尊崇め、其の聖旨を成就することを願ふべきである。心學の狂句に『閑和さよ、願ひなき身の神詣て』といふのがある。風流から來たものかも知れぬが我利〳〵連中が義理も人情も忘れて居ながら神信心をし、慾深いことばかり祈り、人を欺き、人を倒しても自ら富まんとするもの丶神詣よりは優つて居る。中には「心だに眞の道に適ひなば祈らずとても神や守らん」との古歌を楯に取りて祈りの不必要を唱ふるものもあるが、此等は皆な祈りの眞意を知らぬものである。耶蘇の與へられた祈りの手本につき、また耶蘇自身の祈りにつきて考ふれば、祈りは斯る淺薄なものでなく、人生の一大事であることを覺ることが出來る。

第二に「日用の糧を毎日に與へたまへ」とある。第一部は神のことであつたが、此には人のことを祈るのである。而うして第一に日用の糧の爲めに祈つてある。基督の教は圓滿なものてある。人はパンのみにて生くるにあらず、さればとてパンなくして生くることが出來ぬ。パンとは即ち衣食住を總稱したものである。毎日我等が必要なるものを神の新たなる賜ものとして感謝して受る。斯の如くして生涯を送るのが、基督者の生涯である。五十年、三十年の生涯を如何に送るか人の一生は大切なものである。只だ衣たいとか食ひたいとか云ふ爲めに過すなれば、所謂醉生夢死であつて、此世に來た所以の意味が無くなつて了う。馬太傳には「今日も與へたまへ」とある。慾の深い祈り、即ち巨萬の富が積みたいとか、利益が得たいとか、肉體の快樂が滿たしたいとか云ふ願ひは好くない。耶蘇は衣食住の事の爲めに思ひ煩ふことを禁ぜられた。其れは消極的であるが、此に「今日も與へたまへ」とあるは積極的である。其の日〳〵必要なるものを與へらる丶ことを以て滿足するのである。

第三には『我らに罪を犯すものを凡て免せば我らの罪を免し

たまへ、我らを試探に遇せず罪より救ひ出したまへ』とある。精神上の問題に移つて居る。我等が神の前に出て丶祈るべきは罪の赦である。其の第一の條件は他人の罪を赦すことてある。此は丁寧反覆敎へられた。人に對しては嚴格に戒めながら、神に己が罪の赦を祈つても無益である。祈りは容易にすべきものでない。心と誠とを以てせねばならぬ。次には誘惑のことが記してある。誘惑と云へば今日普通の言となつて居る。此の思想は昔からある。小人玉を懷いて罪あり。ある境遇に臨んでは其の誘惑に背けて罪を犯すことがある。瀆職事件の如きは、或る誘惑にかゝつたものである。のつぴきならぬ羽目に陷つたのである。然かし神は我等の堪へ得ざる誘惑や困難には遭はせたまはぬ。自ら之に近づいて行くのは好くない。自ら火を抱くものはないであらう。

祈らば必ず聽かれる。此は疑ひのないことである。神は熱心に祈るものを久しく忍ぶとも必ず聽きたまふ。是れは昔も今も同じことである。門を叩けよ然らば開かれ、求めよ然らば與へられ、尋ねよ然らば逢はん　祈りは確かに聽かれる。然かし或る時は祈りの聽かれぬことがある。基督の言と我々の經驗と一致せぬことがある。祈る通りに成ることのみが聽かれたのではない。我等の爲めになることを與へられる。我等にして若し害になることを求めるなれば神は決して聽き屆けたまはぬ。米國の南北戰爭のとき、リンコルンの許に一人の寡婦が遣つて來た。彼女に一人息子があつたが戰爭に出た爲め、一人て生活に窮し、餓死せんとするばかりであつた。それでリンコルンに面會を求め其の事情を話したのである。するとリンコルンは之に厚き同情を表はし『然かし若し汝の願ひを容れたならば、同樣な境遇に居る他の人々の願ひをも容れてやらねばならぬ。苦しいであらう。同情する。私も苦んて居る。國民も苦んで居る。其れ故汝を苦んで下さい』と云つた。此の一言を聽いて件の婦人は感慨し、遂に利己的の考へを抛ち、大いに國の爲めに盡す精神を鼓吹した。然かしリンコルンは一方に於て其の婦人に生活の道を與へたいふ話がある。神に祈ることも其の通りてある。己が心のまゝをするにあらず、神の心と一つになり、其の喜ばるゝ犧牲を獻ぐることが肝要である。

一〇

價値ある生活

安井哲

一、絶望と誘惑との多い世の中

今から十年許前、或年若き知人と一日懇談致した事が御座いました。ところが此婦人が嘆息して云はれますには「私ほど不幸な者が此世の中に御座いませうか。兄はあつても充分に弟妹を助くるに足らず、其上親族にも補助を與へねばなりません。私を自分の將來を考へて見ますと、實に望のない者であります」と。此婦人は實に正直な眞面目な人て、熱心に勉强もし充分に發展の出來る人てありましたのに、家事の係累のために數年間非常に辛苦し、時には自分を幸福なる友人

と比較して、非常に其不幸を悲んで居ました。或時私は其人の煩悶を慰めて、「あなたの境遇には充分御同情申します。併し假りにあなたが敎育を受ける事が出來なかつたならば如何で御座いましたらう。或は他人に召使はるゝ身となつて居られたかも知れません。然るに兎に角相應の敎育を受けて、不充分ながらも弟妹に補助を與へ得る事の出來るのは、實に感謝すべき事では御座いませんか。其故に自分を幸福なる友人に比べて煩悶するよりも、自分自身の現在の境遇を一層不幸であつた過去の境遇に比較して感謝する方が、遙に勝つて居りませう」と慰めましたが、其後其婦人は終に幸福の身となりました。

私は之れに類する多くの例を日々實驗致して居ります。中には誠實に能く働いて居ても、不幸に不幸を重ねて煩悶絶望して居る方も少くは御座いません。實に御氣の毒の次第であります。殊に悲しむべき事は、かゝる正直な方でも、餘り不幸が打續き煩悶を重ねますと、時としては誘惑に陷つて正當なる道を蹈み外づし、無理に一時的慰安を求め樣とする樣になる事で御座います。況て誠實ならざる人々の種々の誘惑に陷つて、終には家名を汚し、友人の信用を失ふ樣になつてから、初めて其非を悔い悲みに沈む事は少く御座いません。かかる人々に日々相接して居ます時には、實に一種いふべからざるの苦痛を感んぜずには居られません。

二、ブルックス氏の説敎を讀みて大に覺る

かく私は近頃多くの不幸なる方々に同情を寄せねばならぬ境遇に居りますので、勇氣と奬勵とを得る爲めに、日頃愛讀するブルックス氏の説敎を出して讀んで見ますと、其中に次の樣な意味の面白い例があります。

「例は今夜一の罪を犯さうとして居る人があるとして、其人を誘惑より救ひ出すとするに就て色々の方法があります。即其一を誘惑に陷つてしまつた後に、當然來るべき恐ろしい結果を説き、強い恐怖の情に訴へて之れを止むる事、第二は假りに此誘惑より免れた時には如何なる良き結果があるかといふ希望に依つて、非行を爲す事を止むる事であります。然るに第三の方法は最も高尚な理想的の者であつて、即其人自身が非行其者を厭ふ事であります。

三、行爲其者の撰擇と結果の撰擇

そこで以上の三の場合を研究して見ますのに、第一他人の意志に依つて自分の行爲を決定する時には、自分の行爲に對して責任を有して居ませんから、其行爲には道德的價値のない者と云はねばなりません。加之將來に於て忠告者を有たぬ場合には、同樣の非行を敢てせぬとも限りません。第二其結果の良否に依つて非行を遂げ、又遂げぬと云ふ事は純粹の倫理的行爲では御座いません。何故ならば其行爲の目的は善行其者でなくて、之れに伴ふ報酬であるからであります。然るに第三の場合の如く其非行自身を惡んで、其結果如何に關せず之れを拒絶する事は、其人の心の狀態が既に誘惑全體に打勝つ傾向を有して居る者であります。

四、クリスト信者の生活

以上の例に依つてクリスト信者の生活を説明する事が出來ます。即信者は現在に生存する者でありませんから、決して一時的の幸福や眼前の誘惑に心を奪はるゝ事は御座いません。實に永遠に生くる事を信じて居る者は、其永遠を終始一貫した主義に依つて生活したいと考へる者であります。殊に吾等を我自身の孤立的生活でなくして、神と共に生活し、神に從つて生活する者で御座いますから、假令吾等自身の力が微弱であつても、無限の力を有し給ふ神に信賴致します時には、自分以上の力を以て事に當る事が出來ます。私も外國生活を致して居ました折、非常に困難な境遇に居つた事が御座いましたが、正しい道は如何なる場合でも必蹈まねばならぬと堅く決心しました時には、不思議にも一種の力を得て能く其困難を打破る事が出來ました。彼人格の墮落よりも寧物質的の損とか、身體上の害とかを恐れて非行をせぬ様に注意するのと、靈的生活の上より悪を厭ひ善を喜ぶのとは非常なる差異があります。

五、非行は自分自身に害をなすのみならず周圍の人々にも亦悪しき影響を與ふ

然るに罪悪の與ふる影響を充分に考へて見ますと實に恐るべき者であります。自分自身の罪を悔悟に依つて之れを去る事が出來るとしても、自分が悪しき感化を與へた人々に對しては、如何にして之れを償ふ事が出來ませうか。彼等の中には既に自分の周圍を去つて、遠隔の地に音信不通となつて居る人々もありませう。是等の人が若自分の悪しき感化に依つて非行を續けて居たならば、如何にして其罪を償ふ事が出來ますか。例ば父母が其子を不正直にし、長官が其屬僚を不誠實にし、主人が召使をして虚僞の人とする事があつたならば、其及ぼす所の弊害は實に大なる者で御座りませう。私等折々教師としての自分が、如何なる悪しき感化を其接近する生徒の方々に與へて居るであらうかと思ひます時には、實に戰慄せずには居られません。何故ならば其不知不識與へた不良の感化を洗ひ清むる事が出來ぬからであります。

私が曾て東京の一商店に「イチゴ」の「ジャム」を買ひに參りました處が、二十二三歳位の店員が「アンズ」の「ジャム」をくれました。そこで私が之れを「アンズ」であると申しましたら、どうしても「イチゴ」であると申して聞き入れませんでした。(勿論之れは舶來品で英語で其名が書いてはありましたが)そこで私は論ずるまでもない「アンズ」と罐に書いてあるからと申しました處が、次には「グースベリー」の「ジャム」をくれました。餘り之れは無責任である。「アンズ」と書いてあり「グースベリー」と書いてあるものを無理に「イチゴ」と云ひ張るなどとは、何といふ不正直な商賣の仕方であるかと咎めました。私は幸にして「イチゴ」や「アンズ」位の英語を了解し得ましたから、欺かれずにすみましたものの、若老人とか子供とかの御客であれば「イチゴ」の代りに「グースベリー」とか「アンズ」とかを買はせられたで御座りませう。苟も一商店を預る店員が、賣物の種類を知らないで、如何にして眞面目な商賣が出來ませうか。若自分に不確

だと考へたならば、主人に聞きに行くべきではありませんか。かやうに店員を敎有した此商店の主人の人物は、想像されて誠に心苦しく感じます。吾國商人の不正直、無責任も此に至つては、餘り甚しいと實に不愉快に堪へません。私はかかる無責任な店には再買物には來ぬと申しましたが、此店に召使はるゝ數名の小僧の將來を考へますと、實に悲しく思はれます。

六、吾等が自身を修養し善良なる感化を周圍に及ぼすは吾等の義務なり

其故に吾等は我々自身の爲に善行を爲さんと努力するのみでなく、かくして吾周圍の人々に自然善良なる感化を與ふる事の出來る樣にするのであります。眞に文明國民と稱せらるる人々の日常の生活を觀察して見ますと、實に能く他人に對する義務を盡して居ます。例へば人々を墮落せしむる樣な好ましからぬ風俗が出來そうになる時には、眞面目な人々を相助けて熱心に之れを豫防する樣に勉め、卑しい快樂に換へるのに高尚な快樂を以てする樣に企てます。或は商賣をする場合に於きましても、主人が正直を專とし店員が之れに從ふ樣に、能く吾身と他人との關係を熟考して、他人と共に高尚な生活に入らんと心懸けて居る樣に見えます。

七、自身の救を求むるのみがクリスト信者の目的に非ず、他人を愛し他人に仕ふる事が即神に仕ふる眞の意味なり

私が未だクリスト信者とならぬ頃、英國に於て度々友達と信仰上の議論を致しましたが、或時私は親友に向つて、自分自身の救を得る爲めにのみ神を信じ、之れに依つて自身の幸福を得る者と滿足するならば、其信仰の動機は一種の自利では御座いませんか、私は若神を信じ、之れに絶對的服從をなさうと決心したならば、神の與へ給ふた處の運命に安んずるので、萬一神の思召に依つて非常に不幸な境遇が與へられても、寧之れに滿足するで御座りませう」と申しました處が、あなたは未だ神の惠と之れに對する信者の喜を經驗せぬから、かゝる事を云はるゝのでありますと申された事が御座いました。

然るに私を信者になりました今日も尚、吾救のみを以て信者の目的とは考へません。私は神が私の如く罪深く不從順な者に對して、深き惠を與へ給ふ事を感謝致します時には、其幾萬分の一の愛でも、吾周圍の方々に與へ度いと考へます。併他人の爲めに爲すべき事や場合が山の樣にありながら、充分に之れを爲し得ぬのは心を省て常に苦痛に感ずる事であります。私はカントの曰はれた「人も對する愛は吾々を神の愛に導き、神に對する愛は吾等をして再人に對する愛に導かしむ」といふ事を信じます。

要するに私の考へて居る價値ある生活は、先吾自身を修養して正しき者とし、不知不識其周圍の人々に善き感化を與へるのみならず、進んでは其周圍の人々の爲めに出來る丈何かの役に立つ樣に親切を盡すと云ふ事が、即信者として神に仕ふる道であり、且又クライスト御自身が吾等に示し給へる實例であると考へます。（此の篇は講演者の執筆せられしものなり）

人格となりたる眞理

松永文雄

諸君余は數週前委員の御方より女子青年會夏期講習會に於て今年の講習會の格言として選ばれたる聖書の語に基づき奬勵をなすべき依賴を受け不肖を顧みず今日此講壇に立つことなりたるなり。

さて今年の格言は諸君の知り玉ふ如く第一にヤコブ書第一章二十二節なり其語に曰く

『爾曹徒らに道を聞くのみに非ずして之を行ふ者となるべし』と。

第二には『獻身』なる題の引證としてヨハネ傳第十二章の二十四節なり其語に曰く

『誠に實に爾曹に告ん一粒の麥もし地に落て死ずは惟一にてあらんもし死なば多の實を結ぶべし』と。

第三には『働の實』なる題の引證としてヨハネ傳第十五章八節なり其語に曰く

『爾曹多の實を結ばゞ我父之に由て榮をうく然らば爾曹我が弟子なり』と。

同しくガラテヤ書第五章二十六節に曰く

『靈の結ぶ實は仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信』と。

第四には『漁人』なる題の引證としてマコ傳第一章十七節なり其語に曰く

『イエス彼等に曰けるは我に從へ我爾曹を人を漁る者とせん』と。

此等の聖書の語は何れも深き意義と豊かなる靈的敎訓とを含蓄するなり。余は此等の驚べき聖句に基き諸君と倶に靈的敎訓を學ばんとするに當り多の困難を感ぜざるを得ざりしなり。如何とすれば此等の聖句は一節づゝ分離して考ふるも多の敎訓を學び多の意義を含蓄するものなるに此等を總合して此等の聖句に含蓄する意義を學ぶこと實に困難なればなり。

試みに第一ヤコブ書第一章二十二節のみに由ても『知行一致の生活』若くは『基督信徒の實踐躬行』に就て述ることを得ん。第二のヨハネ傳第十二章二十四節のみに由るも『人間最高の生活』若くは『犧牲的生活の感化』に就て述ることを得ん。第三のヨハネ傳第十五章の八節のみに由るも『豐富なる信仰生活』若くは『基督の眞弟子』に就て語ることを得ん又ガラテヤ書第五章二十六節のみに由るも『最善最美の生活』若くは『基督信徒の善行美德』に就て語ることを得ん。最後にマコ傳第一章十七節のみによるも『向上發展ある靈的生活』若くは『神の國の建設者』につき語ることを得へければなり。

余は斯る多の高尙なる題目と多の深遠なる意義と多の豊富なる敎訓を含蓄する此等の聖句に基つき如何に之を諸君の前に說き如何に之を諸君と倶に考へ如何に之を諸君の靈的修養の助となすべきやにつき苦心し祈禱したること少からざりしなり。然り而して余は遂に『人格となりたる眞理』なる題詞

を選び此講習會の格言として選ばれたる聖書の語に共通する意義の一部分なりとも學ぶ所あらんと決心したるなり。

諸君我等は何故に『徒らに道を聞くのみにあらずして之を行ふ者』とならざる可らざるか。抑も基督の宗教とは如何なるものなるか。基督教は組織せられたる教理なるか、然り基督教には組織せられたる教理あり、されと基督教は教理以上のものに非ずや。基督教は高尙なる倫理的教訓なるか、然り基督教には高尙なる倫理的教訓あり、されど基督教は倫理的教訓以上のものに非ずや。即ち基督教は宗教的眞理が活ける人格となりたる宗教に非ずや。高尙なる倫論的教訓が實踐躬行となりたる宗教に非ずや。換言すれば基督の生涯に實現せられたる宗教的眞理これ即ち基督教にして基督の人格を透して活ける勢力となりたる倫理的實行即ち基督教にあらずや。

故に基督の人格即ち基督教の生命なり。彼の實踐躬行即ち神の國の發展する元動力なり。フヰヒテイが基督を人格化したる宗教なりと評しフヰリップス、ブルークスが基督を眞理が人格化したる者なりと嘆美したるが如く、宗教的眞理が基督の人格に實現せられたる偉大なる事實にて基督の宗教其物に非ずや。

想ふる基督教の本質は人格となりたる眞理なり。福音はインカーネーションなり。

使徒ヨハネが『道肉體となりて我等の間に住めり我等其榮を見るに神の生み給へる獨子の榮にして恩寵と眞理にて滿てり』とは人格となりたる眞理のモデルに非ずや。故に基督教が所有する眞理は唯だ理論的、抽象的のものにあらずして具體的、人格的のものなり。基督の人格を離れて基督教の眞理なしと言ふも可なり。基督は彼自ら道、眞理、生命にてありしなり。基督の救はこの道、眞理、生命なる基督と偕に活ることなり。

基督の自覺と吾等の自覺と調和し、基督の人格と我等の人格と同化することこれ基督の救る外あらざるなり。

故に基督教は單に智識と理論にあらず眞理が人格となり實行となりたるものなり。

諸君よ試に考へ給はずや。古今の哲人は彼等の思想及び教訓を重んじたり。而して彼等の多數は思想と人格の調和と教訓と實行の一致とを餘り重んぜざりしなり。然れど基督は一行の文を書き給はず一巻の書を著はし給はざりき。彼は深遠なる神學の組織を弟子等に教訓せず又教理の巧妙なる說明をなして神學の書籍と學者の智識の中に彼の宗教を殘し給はざりしなり。寧ろ彼は無學なるガリラヤ湖畔の漁夫、修養あるエルサレムの紳士、不義なるカベナランの税吏、憐むべきサマリヤの婦人、緑蔭に靜思默想せる青年、街上に食を乞ふ不具者等の心の中に彼の非凡なる人格の感化を殘し給ひたりき。故に彼の勢力は智識にあらず人格にてありき。彼の感化は理論に非ず善德にてありき。彼は『我に從へ』『我に來れ』『來て觀よ』と語り得る實在したる人格の權威を以て道を弘め給ひしなり。人格となりたる眞理の力に由て人々をして彼

を信ぜしめ愛せしめ慕はしめ給ひたるなり。故に基督の宗敎は單に智識の産物にあらず彼自らの人格の顯現にてありき。眞實に基督は眞理にてありき道にてありき生命にてありき光にてありき。これ彼が古今の哲人と異り給ひたる所以の一に非ずや。彼は道を聞き又敎ふるのみならず之を實行し給ひしなり。諸君試に看ずや。基督は天父に對する信仰の重んずべきことを敎へ給へり。同時に彼は血の汗を濺ぎ給ひし苦痛と悲哀の絶頂に經て『我が心の任を爲さんとするにあらず聖旨に任せ給へ』と祈りて全く天父に信賴する生涯を送り給ひしなり。彼は神の國と其義を求むへきことを敎へ給へり、同時に彼は友に責められ國民に責められ時代の宗敎家政治家に責められ給ひしも十字架上に殺さるゝまで神の國と其義を求め給ひたり。彼は神を愛し人を愛すべきことを敎へ給へり、同時に彼は是が爲に獻身犧牲の生涯を實行して之が爲に肉を裂き血を流し給ひしなり。斯の如く基督は信仰の實行家、義の實行家、愛の實行家にてありき。彼は唯だ舊約時代の思想を研究して其智識に誇り豫言者の敎訓を學び其思想を弄ぶ學者に非ず神の敎を識り神の道を聞くのみにして實行の伴はざる空論家にはあらざりしなり。彼は神學思想の源となり倫理的敎訓の生命となる宗敎的眞理を彼の人格に實現し給ひしなり。彼は眞實に道を實行し給ひたる救主にてありき。唯だ基督のみならず彼の弟子等を見ずや。彼等は神學の組織者、敎理の説明者又は倫理の敎師として世に遣はされたるか。否な。彼等の多くは基督の使者及び證人として世に遣されたるに非ずや。彼等は基督の人格に觸れて基督より得たる宗敎的實驗の證明者となりたるなり。彼等は道を聞くのみに非ず行ふ者となり基督の榮と同胞の救のために貢献し靈の感化に由て得らるる仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信等の最善最美ある諸の德の力を以て傳道し神の國を建設したるなり。諸君よ基督敎は如何にして羅馬帝國を征服したるか。基督信徒の所有したる人格となりたる眞理の力に由りたるに非ずや。活ける基督の人格が使徒、敎父、聖徒、殉敎者の人格となりて世界を敎化したるなり。『人格となりたる眞理』これ我國敎化の大責任を有し給ふ諸君が最も求め給ふべきものに非ずや。

諸君『道を聞しのみに非ずして行ふ者となる』ことに就き實踐躬行の必要を考へ給ふ時に諸君は如何にして基督を信ずるに到り給ひたるかを考へられよ。想ふに諸君の多數は或は學校、或は家庭、或は敎會に於て諸君よりも前に基督を信じ仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信等の諸の德を備へたる聖徒の如き兄弟や姉妹の實行の感化に觸れて基督を信ずるに到り給ひたるならん。諸君を基督に導きたる兄弟姉妹は先づ自ら基督に近く基督と倶に活き彼等の人格より顯現する沈默なる感化に由て諸君をして基督に近かしめたるならん。諸君は基督に近き生涯を送り給ふ時、知らず識らざる中に諸君に接近する人々を基督に導き給ひたることを實驗し給ひたるならん。

此點より考ふれば道を實行し給ふ諸君の人格は實に救な

●り。諸君は他の人々の人格より顯現する力に由て救はれ給ひし如く諸君の人格に由て他の人々を救ひ給ふなり。諸君よ世には多の未だ基督を知らざる兄弟あり。姉妹あり彼等は基督を嫌ふ人のみにては非ざるなり。否な彼等の中には心に基督に從せんと欲しつゝある者あるなり。されど彼等に基督を紹介する者なきが故に語のみを以てするにあらず實行を以て紹介する者少きが故に彼等は基督に從はざる者多きなり。斯る人々に對して基督の恩惠に沐浴し其德に化せられ給ひたる諸君が「道を聞くのみに非ずして之を行ふ者となりて」基督の證人となり基督を顯現する者となり諸君の人格に由て斯る人々に自己の弱きを知らしめ自己の罪深きを覺らしめ基督に信賴するに到らしめ給ふなるべし。

余は茲に諸君の生涯には驚べき價値と勢力と榮光の潜みつゝあることを想はざるを得ざるなり。余は茲に諸君の人格は基督の人格を顯現し、諸君の愛は基督の愛を流露し、諸君の人格と愛に由て未だ基督を識らざる同胞に基督を顯はし給ふことの如何に高貴なる生涯なるかを想はざるを得ざるなり。

嗚呼諸君の心に輝く聖くして美はしき愛の光よ。諸君の心の奥に輝く愛の光は神と基督の愛の光を暗示するに非ずや。天高く氣淸き夜半、天上に燦然として輝く妙へなる星が靜かなる湖水の面に其姿を寫すが如く、諸君の靜にして淸き心の鏡には天に在ます活ける基督の美はしき愛の星影を映しつゝあるに非ずや。嗚呼人格となりたる眞理の如何に高尙にして純潔なるよ 基督は神の化身となりて人を救ひ給ひぬ。諸君は基督の化身となりて同胞を救ひ給ふことの如何に高尙にして純潔なるよ。

更に一歩を進めて「道を聞くのみにあらず之を行ふ者」とならんには諸君の既に經驗し給ふ如く苦痛と悲哀の伴ふことを覺悟し給はざる可らず。換言すれば道を實行する生涯は犧牲の生涯なり。

個人の生活に於て家庭の生活に於て又國家の生存に於て現在の狀態よりも更に向上し發展せんとする時には苦痛と悲哀に滿る犧牲を要求せらるるなり。諸君は國家を安全に防禦する爲には幾千幾萬の家庭に於て寡婦と孤兒とを泣かしむるものあることを知り給ふならん。諸君は家庭の平和と幸福との爲には思慮深き母が斷腸の想を抑へて人知れず濺ぐ涙と人知れず神に訴ふる祈とを要求することを知り給ふならん。學校に於て社會に於て又然り。特別に基督の道を聞くのみにあらずして之を行ふ者となるに於ては苦痛と悲哀多きことを覺悟せざる可らざるなり。人々の多く知れる犧牲に關する昔物語は幾回か新なる時代の要求に應じて新なる人の新なる行爲に由て現はれつゝあるなり。而して諸君の中には此物語の主人公の一人となり給ふ方々少からざるべし。高き生涯には高き價を拂はざる可らず。諸君は愈々高き生涯を實現せんために愈々涙の洗禮を受け血の聖禮典に陪する必要を實現し給ふならん。然れどこれ諸君のみにてはあらざるなり。神の道を實賤躬行したる古來幾多の預言者、義人、信仰家、聖徒等は奸惡なる世を慨き、罪に沈む同胞を想ふて苦痛と悲哀に滿ちた

る犧牲の生涯を送りたるに非ずや。

神が人の形狀を取つて世界に現はれ、道は肉體となつて人類の間に現はれ、眞理は人格となつて同胞の間に住み給ひたる時に如何なりしか。基督は如何にして神を顯現し如何にして同胞を救濟し給ひたりぞ。彼は威風堂々たる將軍、權威赫々たる帝王、博學多識なる學者、雄辯滔々たる辯士として世に立ち給ひたるか。否な、彼はいぶせき賤が家に僕の形狀をとりて生れ、貧困、苦痛、悲哀、寂寞、孤獨の生涯を送り世より捨てられ責められ嘲けられ遂には十字架上に殺され給ひしに非ずやかく基督は犧牲の生涯に由て神の愛を人類に現はし人類の全靈を神に和らがせ給ひしなり、

更に諸君は神の道を實行し犧牲の生涯を送る者となり給ふ爲に同胞の重荷を負ふものなることを自覺し給ふなるべし。

基督は何故に犧牲的生涯を送り給ひたるか。彼は同胞の重荷を自ら負ひ給ひしが故なり。彼は同胞の苦痛を以て彼の苦痛となし同胞の不幸を以て彼の不幸となし給ひしが如し。諸君は基督の傳記を硏究して彼が自己の重荷の爲に苦み給ひしこと實に稀にして彼の重荷は同胞の爲めにして彼の苦難は同胞の爲の苦難にてありしことを認め給ふならん。我儕は基督が人類の爲に負ひ給ひし苦痛と重荷の如何に深く且つ大なりしかを知ること能はざるなり。されど彼が正義、純潔、愛等に對して抱き給ひたる標準と此等に對する彼の時代の思想の間に甚しき相違ありしことを考ふる時に其の相違の甚しきだけ基督の重荷を感じ給ひしことと甚だ大なりしことを推測することを得べきなり。

諸君は基督の敎を實行する者として諸君の理想は高尚に趣味は純潔に愛情は熱切になり給ふに比較して現代の社會と同胞に對する苦痛と重荷とを感じ給ふこと益々深く且つ大なることを實驗し給ふことと信ずるなり。

諸君は基督が犧牲の生涯を送り人類の運命を身に負ひ給ひしが如く神の道を實行する者となりて我が國民の苦痛と重荷を諸君自ら負ひ給ふて基督と同じ實驗を味ひ給ふならん。諸君よ人生に於けるあらゆる向上と發展の道は恒に十字架の道なり。如何となれば高き理想に進まんとする時は劣等なるものを捨てざる可らざればなり。心靈的に得る所あらんとする時には物質的に失ふものなかる可らざればなり。諸君は一層高尚なる靈的發展をなし給ふ時に一層上よりの聖き感化に沐浴し捨て難き或物を犧牲となし他の人の達する能はざる處に達せられ得ることを經驗し給ふならん。あらゆる敎育は眞正なる意義に於て苦痛なり。神の敎育も亦然り。神は十字架に由て最高最善の敎育を人類に授け給ふなり。諸君は基督を愛し同胞を愛する爲に重荷を負ふべきなり。如何とすれば深き愛は苦痛と犧牲に滿つればなり。高き愛は十字架を要求す。神の道を聞くのみならず之を實行する者は重荷を喜びて負ふの人ならざる可らず。

斯の如くにして基督の眞理が諸君の人格に實現せられ、神の道が諸君の實行となり。諸君の人格より自然に流露する實行の感化に由て諸君は人の靈魂を漁る者となり給ふべし。諸

君よ博愛、慈善、教育、傳道、家庭等皆なこれ人を救ふ活ける力にならずや。此等の事業の中心に神の力と基督の精神とは諸君の人格と善行とに由て活動せしむべきに非ずや。願くは女子青年會の會員、諸君が基督の道を實踐躬行し、信仰的倫理的に豊富なる果實を結び、基督に仕へ同胞を救ふ爲に犠牲的生涯を送り、聖靈の感化に由て最高最善の德を備へ、基督の弟子となり、其榮光を顯彰し、人格となりたる眞理の力に由て、暗黒の裡に迷へる同胞を基督の慈愛の温光に導き給はんことを祈て止まざるなり。

家庭教育と宗教

高等女子師範學校教諭　宮川壽美子

家庭の氣風と申しますのものは寔に大切なもので御座います。さて之を養ひますには取り別け宗教の必要を感ずることてあります。

世には三通りの人物があります。第一は境遇に支配せらるる人て、悲しい時には只だ悲しく思ひ、之を超越することが出來ないのてす。安樂な時には之に安んじて滿足し、何所までも之に支配せられ、父兄や先生とともに居るときには無事て御座いませうが、其のやうな人が若し惡しい境遇に立ちましたときは實に憐れなもので御座います。第二は境遇を利用する人て御座います。若し病氣にてもなりました曉には、これによつて一層他の病人に同情を表するとが出來るやうになつたと諦めるのてす。逆境に處しても、順境に處しても、之を利用せんと心懸けるので御座います。第三は境遇を支配する人て御座います。此等の三通の人物を具體的に分けますれば、先づ境遇に支配せらるゝ人は若し他人から惡いことを仕向けらるれば、復讐の念が強く、何うかして其の怨みを晴らしたいと其の時の來るのを待つて居ます。之を利用する人は、聖書に敵を愛せよと教へてありますが、之を實行するのは此のやうな時てせう。私を憎むものを愛するは、自分を修養する爲めになりますと考へ、または彼は禽獸の如き人だから其の爲ることを氣にしてはならぬ。頓着しないに如かぬ。氣にする方が野暮だと考へるのてす。第三の境遇を支配する人は、斯る場合に其の人を氣の毒がり、之を眞實に愛するのて御座います。宛も基督が己れを十字架に懸けたものの爲めに、父よ彼等を赦したまへ、彼等は其の爲すところを知らざればなりと神に祈られた如き心持になるのてす。此のやうな態度て進みますと自然四圍のものが其の人に服從し、期せずして之を支配するに至るので御座います。かの舜が其の繼母に殺されんとまでしたけれど遂に孝心の誠を以て之に打ち勝ちました如きは其の適例で御座います。

敎育の第一の目的は斯くの如く境遇に勝ちて之を支配する人格を造ることてあります。私共は何時までも家庭や學校にのみ居ることは出來ません。卒業すれば世の中に出ねばなりません。其の場合には是非とも私共は境遇に支配せられたり、若しくば之を利用するのでなく、立派に之を支配して

行くことが肝要であります。さて之を致しますには宗教の必要があるのです。井上博士は絕對善と申すものを說かれますが、實に此の世は神に支配されて居るので御座います。私共は其の友となつて守られて居るのです。人には肉體慾や精神慾の前に參りますと之に敗け易いものです。例へば試驗前に十分勉强して置けば良成績を得ることが解つて居ても、慾に敗けて懶け、遂に不成績に了ることがあります。然う云ふ場合に神を信ずるものは、之に打ち勝ち得る力を有するのです。然かし神を信ぜぬ人は只だ忍耐心さへあれば足ると云ひますけれど、其れだけは決して十分で御座いません。信仰によりて己れに克ち、苦難に耐ゆることは、只だの忍耐力では無し得られないところを爲し得るのです。それで境遇を支配するやうな大なる事を爲すので御座います。是非とも信仰を植ゑ付けることが大切で御座います。

英國人は强い國民です。其の造るものは實に丈夫で御座います。斯の如く彼等が上品の氣風を造り、大國民となり得たのは、如何なる原因からでせうか。烟突が多いからでも御座いますまい。其の大多數の好き家庭のうちには家庭の禮拜と云ふものが行はれて居ます。私が英國に居ましたとき、土曜日には諸方の家庭に招かれて參つたことてあります。夜の九時半頃になりますと、家族擧つて一室に集ります。下女下男も一緒に集るのです。大抵は主人が聖書を讀んで祈ります。若し其の家の長男などが大學に入つて居れば、其の無事を祈り、溫き同情を以て其の成功を願ふのです。また大學に行く場合には、其の席に居て斯る祈りを聽いて居る次男が、斯の如き溫き同情を以て自分の爲めに祈つて吳れて居ると思ふて、懶ける氣をも取り直し、失望するやうな場合にも慰められ、奮發して勉强するに至ることです。小供の間は宗教は十分に解りませんけれど、斯る空氣のうちに養はれて居れば、自然健全に身を處し國に盡すに至るのです。二三歳から十二三歳の小供は七時頃になると寢かされるのですが、可愛い寢衣を着て、口のもとらぬものは母が代つて祈り、口の廻るものは『愛する耶蘇樣』と優しい聲に父母や兄弟の爲めに祈ります。又食事のときにも只だ當然と思ふて感謝の念もなく之を頂くのではなく、神の惠みを謝して食するので御座います。英國に立派な紳士の多いのは、要するに此の家庭の禮拜によりて造られたもので御座います。英國の健全なる氣風は實に斯る宗教教育によりて產み出されたので御座います。宗教のない國は何うしても豪い國になることは出來ません。

丈けの低い人のうちに居りますれば自分の低いことは解りませんが、高い人のうちに出ますと耻しく感ずるに至るもので御座います。之と同じく歷史上の豪い人物とか、所謂絕對善なるものに接するやうになると、自分の惡いことが解り悔い改めねばならぬとの念が生ずるのです。然かし神なきものは然うでありません。自らを義しとして耻づべきところを悟りません。神を信ずるものは謙遜して、高い人格を養ふ

ことを目的として進みます。それ故成功もいたします。那須與市が扇の的を射たことを考へますに、誰も此の重任に當るものがない、若し愈々之に當るものがなければ味方の大いなる耻辱て御座います。彼は遂に撰ばれて其の任に當つた。彼は我が軍勢に我れほどの射手はないと云ふ高慢な念は少しも懐いて居りません。只謙遜して若し射損ずれば已れの耻のみてはない、實に味方の耻だ。南無八幡云々、別けては下總の云々と神々の助けを祈り、一心を凝めて矢を發ちました。本當に生命がけで御座いました。すべて高い目的を射貫かんとするものは、謙遜して立派な人格の前にひれふす心懸けがなくてはなりません。

さて宗敎を分けて二つにいたします。一は自然敎、他は啓示敎。啓示敎は基督敎、マホメット敎、佛敎等の如きものてあります。自然敎は恐怖と愛との二つから起るもので御座います。例へば太陽を見て天道様と拜するが如きは其れてあります。我國に行はるゝ祖先禮拜の如きも其の一つです。之は恐れからではなく、祖先を愛し之を慕ふところから起つたもので御座います。私は英國に居ましたとき其の立派な氣風は家庭の禮拜から産み出されたことを見、日本には其の様なものはないのであらうかと考へました。そして私は假令高尚な宗敎ではないにせよ、矢張り家庭に於て宗敎敎育のあることを認めたのてす。其れは即ち祖先禮拜て御座います。大抵の家では家長が毎朝之を禮拜し、新しいものは之を供へて尊敬して居る。此の間に日本人の立派な精神を造つたのであると存じます。今日では宗敎は云ふに足らぬ、立派な學校があれば足ると云ふものがあります。然かし此程も大學で徳川時代に於ける天てふ思想が如何に發達して居たかを研究して居ました。吉田松蔭は天の道理にそむかぬことを心懸けて居ました。人間は人間以上の人格を尊ぶことが大切であります。境遇を支配する上にも、また理想の上にも大切であります。

宗敎は何時から敎へたら好いでせうか。まだ無我夢中の小供の時代から敎へておきたい。私は英和女學校に長く世話になつたものですが、其の間に神の敎を聽き今日あるを得た次第で御座います。英和學校時代は夢中で御座いましたが、高等師範學校を卒へ敎師となつて世の中に出ますときには、ダビデがゴリアテの前に出たやうな心持で、只だ神がともに居ますと思つて辛く勇を鼓した譯てす。沖繩に行つたときの如きも淋しい思ひに堪へられませんてしたが、此の信仰によりて之に堪へました。殘念なことや、色々の失敗もないてはありませんが、兎に角信仰によりて今日あるを得て居ります。倫敦に行つたときには日曜日は最も大切てありました。私は色々の敎育を受けましたけれど、就中英和學校で受けた宗敎敎育が最も大切てありました。神と云ふものは果してあるかと尋ねる人がある。若し眞に居ますなれば之と共に居ることは甚だ大切なことである。又若し無いものを有ると認めさせるの外ないとしましても之によりて立派なことが出來れば、それだけでも有り難い。勿論神の在すことを信ずるものに取りては之は大切なことてあります。物質的になつて宗敎を無

用視する事あるが如きは以ての外の心得違ひであります。兩親は其の子女に幼い頃から宗教を教ふる必要があると存じます。

また小供を教ふるときに其の長處を自覺せしむることが大切であります。私は眞中の子ですが、兄や姉は責任がありますから穩しい。末は可愛がられる。私に剛性で云ふだけは云つて了ふ方でした。或る日國から親戚が參つたので私は名譽心があるから好い子になつたを譽められやうと思つて居ると、母は意地の惡い子で仕方がないといつたので、名譽恢復は出來ず自暴になつて了ひました。十四歳のとき寄宿舍に這入りましたが、其の時から泣き虫しになり切りに家が慕しくなりました。夏休みに歸りますと餘程以前とは變つたところが出來たものですから、家のものから信用を受けました。實際私は家の人が信用してくれると知りましたときに著しく變つたので御座います。また私の弟は五歳のときから學校に參つたのですが、中學校に居ても馬鹿だ〳〵と云はれて居りました。頭までが小さいなどと非難されたのであります。中學時代には中以下の成績で御座いましたが、私が西洋から歸りまして後一夜同じ室で勉強して居るとき、あなたは文章が出來るから此度からは試驗のときに綺麗な字で念を入れて書いて御覽なさい。又試驗が出來なくとも人格さへよければ馬鹿と云はれてもかまはないじやありませんかと奬勵したのです。其の次の試驗には非常な好成績で首席を占めたのです。今日では專門學校に居りますが、二番と下らない位であります。一度好成績を得てからは、勉強しなさいと云はなくとも自分から勉強するやうになりました。それで子供を教育するには其の長處を取ることが大切です。弟は『私は馬鹿馬鹿と云はれ初めは心配ばかりして居て却つて勉強が出來ませんでしたが、其の後は心配なく勉強することが出來るやうになりました』と申して居ります。

然かし何事も一足飛びには出來ぬものです。或る僧侶が富士山に登りました。餘り元氣な身體でなかつたのですが、醫者は悠くり登れば出來ぬことはなからうと申すので青年たちと出かけました。初めから謙遜してゆつくり歩いた。青年たちが絶頂に達したので、自分も一生懸命に急いで登らうとすると躓いて進まれない。そこで彼は氣が付きまた足許に注意しゆつくりと登つて、遂に成功した。何事でも此のやうに注意すれば必ず目的を成就するものです。

（演說の大意を筆記せしなり未だ校閲を經ず）

日本の法律上に於ける女子の地位

衆議院議員　服部綾雄

私は法律家にあらざれば唯日本の法律を遵奉する一員として法律上女子を何如に見るやを少しく語らんとす。此は日本の法律書を讀めばすぐ判るのであるが、諸孃は暇のない方々であるから少しく話をさして頂くのである。法は二つに區別する事が出來る。一は國家に關するものにて之を公法とい

ひ、他は個人に關係するものにて之を私法といふ。公法に就て云ふならば婦人は公に於て零である。國會議員の選擧權もなければ被選擧權もない市會議員にもなれず郡會議員にもなれない。婦人は國家に對しては權利はないが義務はあるのである。

次に私法に就て特に民法親族編に就て云はんに、婦人は一家の戸主となる事が出來る。然し夫を持てばその承諾を得て婦人が戸主として立つ事が出來るので承諾なくては戸主の權は夫に讓らねばならぬのである。然るに男は戸主となるに決して婦人の承諾を要しない。財産を持つことに於て夫が特有財産を持つことを得る樣に妻も特有財産を持つことを得る。然し夫は妻の財産を管理することを得。又正當の理由あれば之を支拂ふ事も出來る。

男は六十歳にならざれば隱居する事は出來ない。女は何時にても隱居する事が出來る。之は女に權利强き樣なれど實は然らず。何となれば男は六十歳になるまで衰弱せざるものと認めらるれど女は何時にても衰弱し、家族の一員として引き込む事が出來ると認められ居ればなり。

婚姻に就て云はんに、女は十五歳になれば結婚する事が出來、男は十七歳にならざれば出來ない。男は三十歳にならざれば親の承諾を得ずして結婚する事が出來ないが、女は二十五歳になれば親の承諾なくして結婚することが出來る。これは確に女の方に權利がある。然し男は離婚後其の翌日にても妻をもつことが出來るが女の方は六ヶ月を經過せざれば結婚は出來ない。女の方は離婚後まで責任があるのである。これは女が男と異り姙娠といふことがあるからである。妻は夫と同居する義務を負ふ。然し夫は妻と同居する義務はない、たゞ夫は妻をして同居を爲さしむることを要すとある。それから日常は家事に付ては妻は夫の代理人と看做すとあり。これは妻としての權にあらずして夫の代理者としての權である。

次に離婚に關して云はんに、日本では裁判上離婚の理由が十ヶ條ある。(一)配偶者が重婚を爲したるとき(二)妻が姦通をなしたるとき(三)夫が姦通罪に因りて刑に處せられたるとき(四)配偶者が僞造、賄賂、猥褻、竊盜、强盜、詐欺取財、受寄物費消に關する罪若くは刑法第百七十五條第二百六十條に掲げたる罪に因りて輕罪以上の刑に處せられ又は其他の罪に因りて重禁錮三年以上の刑に處せられたるとき(五)配偶者より同居に堪へざる虐待又は重大なる侮辱を受けたるとき(この重大なる侮辱とあるは注意すべき事である、女が少しの事でも重大なる侮辱を受けたと感じ之を耐へる事をせんならば諸孃の中恐らく一人もお嫁に行つて居り得る者はなからふ)(六)配偶者より惡意を以て遺棄せられたるとき(七)配偶者の直系尊屬より虐待又は重大なる侮辱を受けたるとき(八)配偶者が自己の直系尊屬に對して虐待を爲し又は之に重大なる侮辱を加へたるとき(九)配偶者の生死が三年以上分明ならざるとき(十)婿養子緣組の場合に於て離緣ありたるとき又は養子が家女と婚姻を爲したる場合に於て離緣若くは緣組の取

消ありたるとき以上の十ヶ條である。

今一つ民法の上に於て男女異る點は、庶子を家に入るゝに只父の承諾のみを要する事である。遠慮無く云へば諸嬢の中に母の異れる若くは知れざる者が兄弟姉妹として一家に居住する方があるであらふ。此は眞の母でない人の生んだ子であつて父は其を勝手に家に入れる事が出來るのだ。多くの家庭の悶着がこゝから起つて來る。四海同胞等いふ點から考ふれば實に何でもない事の樣なれど一家の母の立場から考ふれば實に容易ならぬ大問題である。故に何とかして此の庶子を家に入るるに母の同意をも要する樣に民法を修正したきものである。

次に親權に就て云はん。子は其家に在る父の親權に服す但獨立の生計を立つる成年者は此限に在らず。父が知れざるとき死亡したるとき家を去りたるとき又は親權を行ふこと能はざるとき家に在る母之を行ふとあり。故に親權は父に在りて母に在らず。母が親權を行ふときはあくまで父の代理者として之を行ふのである。其故諸嬢は何處までも父の代理者としての母となるべく嫁に行かねばなりませぬ。法律上に於て親權は父に奪はれてしまふ。然し親權を奪ふ父は諸嬢が一身を委ねて信任する夫であるといふ事を思ふならば夫が親權を持つのは眞に道理ある事であると思ふ。であるから此の如き法律の下に在つて其の法律を遵奉しつつ立派なる家庭を造り得るのである。

相續權は男が先てある。法定又は指定の家督相續人なき場合に於ては第一が父次は母、父母なきときは、配偶者が其の家付き娘と婚するときは其の女、其の次に兄弟、次が姉妹、次が配偶者、といふ順に相續の權利があるのである。

財産を自分で持ち得る妻は約束も自分でなすことを得。然し夫が之を不承知ならば夫は其を取り消すことが出來る。

之を要するには日本の法律上女の地位は非常に低い。私は民法に於ても公法に於ても女を男と等しく認めてよき事と思ふ。男子も女子も國費を負擔する者は撰擧權を得べきものと思ふ。私がかく云ふは個人主義の立場からにあらず。家族主義からである。故に女が戸主として世に立つときのことである。私は諸嬢が現在の女子の地位を高むる盡力せられんことを希望す。然し盡力なさるに於ては、あくまで今日の地位をよく知つて、出來得る限り其の地位に甘じ、以て其の理想を達せらるるに過ちあらざらんことを切望する次第である。

（講演の要旨を筆記せしなり未だ校閲を經ず。　K）

時代精神と基督教

神學博士　鵜崎庚午郎

（一）

時代精神とは其時代に於て最も勢力ある思想の傾向であります、今日は如何なる時勢でありますか、我々の時代に於て如何なる思潮が最も多く發揚せられて居りますか、惟に諸君は基督教の指導者となられゝ方々であられませう、私は然か

ある事を望むものでありますが凡そ一世を指導するには是非其時代の精神又は之が特徴を承知して居らねばならぬのであります、諺に『朝霞不出門、暮霞走千里』と申す事があります、之は只今讀みました聖書（馬太傳第十六章一―四）にもある通り晨に朝紅があると今日は雨だらうと云つて門を出ませんが暮に夕紅を見ると明日は晴だらうと思つて千里の外に旅するとの意であります、我々は空模樣を見て晴雨を定むると同樣に其時代の休徵を見て社會人心の傾向を察する事は甚た大切であります、基督も『空の景色を別ことを知りて時の休徵を別ち能はざる乎』と申されました、我々は時勢後れとなつてはなりませんが左りとて時勢の寵兒となつて只時代思潮に翻弄されて居るべきてはありません、我々は所謂時代を超越して一歩先きに立つて時勢を指導せなければならぬと思ふのであります、今日基督敎界に要するものは多くありますが最も急務は男女の訓錬ある指導者であります、私は諸君が指導者を以て自ら任じ此處にて研鑽修養せられたる事が他日立派なる指導者となる資格を造るの準備たらん事を切望する者であります。

（二）

さて今日の時勢は如何なる特徴がありますか、觀察の方面によりて其特徴を異にいたしますが我々の立場から觀察すれば物質的精神と云ふ事が今日の時代精神のやうに思はれます、恐らく今日程物質的精神が盛んで世俗の事に心を奪はるる時代は他にあるまいかと思ひます、歷史上に我々の思出す時代は彼のストア哲學が衰へて快樂思想に移つた羅馬の時代でありませう、又近世では英國のエリサベス朝時代がよく今日に似て居ると思ひます。御承知の通り彼の時代は文藝上燦爛たる光輝ある時代でありましたが其と同時に奢侈淫靡の時代でありました、近頃は大分下火になつた樣でありますが一時元祿時代の趣味が流行いたしました、今日の時代は多くの點に於て元祿時代に彷彿して居ると思ひます、元祿時代の特徵は表向き立派な洵に燦爛たる時代でありましたけれども裏面には風俗が亂れ優美と云事はありましたらうが柔弱は免かれませなんだ、今日で申す伊達風は其時代に流行したものでありまして虛榮虛飾に流れて居た事が判ります、當時名節は地を拂ひ武士道は墮落して腰に帶びたる大小も伊達に過ぎず、質朴剛健の氣風は又見る事が出來なくなりました、又此時代には敎育の必要を叫びましたが彼は時代精神の反映と思ひます、殊に貝原益軒の如き人物が出まして女子敎育を唱へましたり、女大學が歡迎せられましたのも一方から云ば社會墮落の反證であります、是は餘り皮肉な觀察のやうでありますが忠君愛國を喋々する時代に忠君愛國者の出た例がございません、德育の問題を講じて居る國民は德育の振はざる證據であります、勤儉貯蓄を說廻る必要があるのは國民が奢侈に流れて居るからであります、女子敎育や家庭改良抔を八ケましく云ふ時代は概して健全なる時代と申す事は出來ません、今日の時代は正に其時であるまいかと思ひます、兎に角現代の思潮は事實上の唯物主義に傾いて居るのであります、思想上では

唯物主義を取らぬ人も實際の生活に於て唯物論者と選ぶ所がないのは當今の時勢であります。

（三）

併し物質も神の造りし物で棄べき物ではありません、物質的の發達は我々も大に望む所でありますけれもど之に心を奪はれて今日の如き奢侈贅澤に流るゝ事は甚だ危險でありまして我々が大に注意せなければならぬ所であらうと思ひます、奢侈の戒むべきは今更云迄もなく『奢るもの久しからず』『奢侈亡國』抔とも申しまして宗教家道德家は勿論經濟學者の中にても之を非難するものが多いのであります、或る經濟學者の說に奢侈は流行を追ふ氣變りと虛榮心を逞ふするが故に不道德である、社會の少數者のみ專用するが故に不義である、大なる勞働力を不必要の生産に費すが故に不經濟である、と申しましたが我々は全然此說に同意を表するものであります、又何れの時代でも物質的精神に感れた時は逸樂を欲するものであります、現代に於ても此傾向は殊に著しい様であります、之には種々な原因のある事でありまして交通の便利なる事も其原因の一と思ひますが産業の狀態の變化は確に其重なる原因と思はれます從來産業は個人的の熟練を主とし勞働に敎育の意味がありましたが分業の制となりましてから其壓迫と單調とは非常でありまして勢ひ變化を求むる様になりました、凡そ人には遊樂を好む本能があります、演劇も元來宗敎から出來た大人の遊で『プレー』と云つたのだそうであります、兎に角娛樂は人間の自然の要求でありまして今日の如く奮鬪的に生活せなければならぬ時代には何處かに氣晴しとなるものを求むるは止を得ざる事であります、其結果として日曜日又は休日には芝居寄席其他海濱に或は郊外に出掛けるものは漸く多くなる傾向であります、併し娛樂には健全なると不健全なるとがあります、健全なるものは無論差支はありませんが不健全不合理なるものは避けなければなりません、我々が不都合なる娛樂を避けねばならぬ理由は少くとも五ヶ條あると思ひます。第一は人生の嚴肅を忘却する虞があります、第二は時間を徒費します、第三は正義に缺くべからざる剛健勇猛の志を消磨するに至ります、第四は此世に愛着するに至ります、而して終に不都合なる娛樂は神を禮拜する準備となりません、ジヨンウエスレーは主イエスの道に合はざる娛樂を行ふことを禁じました、之は至當な事でありまして如何はしき娛樂や文學の類は我々が極力排斥せなければなりません、今日世の中に行はれて居る娛樂は娛樂とならずして却て我々の心苦しく感ずる所であります娛樂の問題は程度問題でございます又良心問題でございますから青年會抔にては愼重に考究して貰いたいものであります。

（四）

この物質的精神すなはち世俗主義の跋扈に伴ふて生ずる傾向は不安の精神で換言すれば煩悶であります近頃は以前の様に煩悶を口にするものが多く無い様でありますけれども煩悶の事實は少しも減じて居らぬのみならず厭世的自殺が增加する有樣でありますす世の中には煩悶引受所と云ふやうなものが

出來て居るさうでありますが果して煩悶を醫す事が出來るか否かは疑問であります、社會的不安を醫すには根本的のものを與へなければなりません、其根本的のものは何であるかと申せば希望であります、ワグナーの書いた『簡易生活』と云ふ書物の中に『望なければ命なし』と云ふ一句があります、

私は此一句に多大の教訓を得ました、現代の人は物質的に成功なり、滿足なりを得んと欲して失望の餘り煩悶するものが隨分多い樣であります、ベーコンは『希望は人を長命にす』と申しました、人は希望に由て活て居るのであります、希望の星が消えて了へば人は精神的に死んだも同樣であります、神は人より凡ての物を取り給ひますが希望だけは殘し置かれます、ヨブは煩悶の好適例でありますが何もかも取られましたけれども尙『我贖主は活く』との望みだけは持つて居ました、希望は靈魂の錨と申します、社會の不安を醫す適劑は希望でありまして其希望を確實にするものは信仰であります、煩悶を解決するには信仰問題が先決問題とならなければなりませぬ、又煩悶の結果として注意すべきは暴動の精神でありまず、近來は個人の權利自由を主張する事が漸次盛んとなりまして社會の關係が是迄の樣に親密でなくなつたのは慨歎の至りであります、例ば雇人被雇人の間柄も以前の如く親密でなく互に虎視眈々猜疑の眼を以て見るの狀態であります、資本家に對しても多數の勞働者は常に敵愾心を持ち忌むべき『ストライキ』は處々に起つて居ります、又教師と學徒の間に於きましても從前の樣に美はしい師弟の情誼は漸々薄らぎ學校騷動は一の流行となつて居る次第で甚だ物騷であります、是皆社會に不安のある證據でありまして之が何かの機に觸れて勃發するのであります、之を根本的に救濟するには基督教的精神を入るゝより外に途が無いと思ひます。

（五）

米國のヘンリー、バンダイク博士は心靈的方面より今日の時代を觀察して『懷疑の時代』と云ひ基督教は其時代の福音であると云ふ主意をエール講演にて述べられた事があります、其講演は『懷疑の時代に於ける福音』と題する書物となつて讀書社會を益して居ります、懷疑は何れの時代にもありますが今日は其が目立ちたる特徵となつて居るのであります、今日は學術的方法と其精神が一般に思想界を感化して居ります、學術的方法の結果は批評的でありまして證明せられざる斷定は一切之を斥け其成行の如何に係はらず事實を研究するのであります、此批評的精神は神學上にも及び信仰の基礎も遠慮なく試驗せられ教會の制度及び信仰個條も進步したる學術の光明に照されて研究中であります、歸納的研究法は今や聖書の上にも應用せられ聖書の傳說は是迄の如く人の重んずる所となりません、聖書は久しく神聖無過誤と認められて居ましたが之にも頓着せず何が聖書に書いてあるかを自由に詮義するは時代の精神でありまして甚きは聖書改造の說さへ傳へられて居る今日であります、其處で稍や思想ある人の云ふ所を聞くに、聖書の解釋も區々で教理は互に撞着して居るに果して何を以て神の道とするか、傳道者と雖も普

通の人間と異る所はない、今日は平等の時代である、傳道者の說法に耳を傾くる理由何處にあるか、と先づ基督敎の權威に疑を懷くのであります、ヘルデンの如きも聖俗分離の非を鳴らし知識の進步して居る世の中に眞理を一人にて獨占するは不都合である、敎師は漸次に失職するに至るだらうとまで極言して居ります、是が現代の思潮で自由硏究、個人獨立の判斷と云ふことは敎界をも風靡する勢となりました、併し今日の批評的精神は多數の人を懷疑に導き宗敎上の問題を不可知的として無頓着に附し去らしむる傾向あるは爭ふべからざる事實であります。

（六）

敎會の歷史を見ますと神學の發達は一直線に進んでは居りません、其思想の進步には大要四つの時期があつた樣であります、最初は神秘の時代でありまして當時基督敎の眞理は未だ結晶して居なかつたので無論敎理と云ふべきものは無かつたのであります、信者は單純に『我信ず』と云ふだけて敎會にも未だ自覺は出來て居なかつたのであります、其から敎理時代になりまして眞理はやゝ見るべき形式を取りましたが論爭が盛んで意見區々でありました、依て敎會は信仰箇條を制定して標準的敎理を確立しました、敎理が確立しますと基督敎が型にはまり判古を捺した樣になりまして牽强附會の說を立て其結果細目の議論絕間なく敎理は最早活きた事實でなくして理屈となつて了ひました、故に人は理屈さへ知つて居れば救はるゝので其を否定すれば聖徒も亡ぶと云ふ極端に走つたのであります、所信を告白した敎理が形式に囚はれた時代が中世の煩瑣時代であります、茲に於て眞面目な人は其形式の煩に堪へず敎理を排斥して基督敎の心髓を究めんとしました、是が批評的の時代でありまして今日迄の敎理を其儘で承認するや否やを試驗するのが目的であります、故に批評の結果は決して度外視すべきものでありません、批評は聖書の知識に多大の貢獻をなしました、批評的硏究進みて聖書は沒人情の書に非して人情的となり興味ある書となりました、聖書批評學者に對して我々は多大の感謝を表さなければなりません、併し批評學者に取らざる所は其態度の高慢不遜なる事であります、彼等は多くの材料を供給しました、又傳說の謬りを正しましたが其外に人に對つて何等の使命をも與へません、然るに左も新しき眞理を發見したるが如き態度に出づるは片腹痛き次第であります、尙一つ批評學者に慊らぬは過去に對して尊敬を拂ふ態度の缺けたる事であります、科學者は割合に謙遜で舊來の學者に對して相當に感謝を表して居りますが今日の聖書批評學者又は其流を酌で居る者は兎角舊來の學者に對し尊敬を缺くのみならず罵倒して獨り快とするの風あるは甚だ遺憾であります、神學は自由でありながら他を容れないと云ふ事は矛盾の樣に思はれます、併し批評と信仰とは撞着するものでありません、批評の後に來るものは信仰であります、我等が聖書の問題に批評を試むるは批評其物が目的でなくして合理的信仰の基礎を確立せんが爲であります、批評的硏究の結果信仰か動搖して立場を失ふは其方法を誤つ

たからであらうと思ひます、古い建物を引倒して其基礎を試験するには其試験中自分の居る場處を別に備へる必要があります、批評的研究に従事する者も此用意さへあれば批評は左のみ恐るべきものでありません、况して今日は批評の時代漸く去つて原始的信仰時代に歸らんとする兆候があります、基督教の書店に就て聞くに近頃賣口のよい書物は信仰的の書物であります、夏期學校講習會其他信徒の大會に於ても靈性の修養と云ふことが一般に重んぜらるゝ様になつて居ります、信仰の復興も今日の教會の渇望して居る所であります、神學の上にても、基督に歸れ、人格を中心とせよ、單純なる福音を説けよと云ふ聲が聞ゆるは畢竟これ迄の教理と批評とに不満足を感じ内部的宗教を要求して居る證據ではありますまいか。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

如上の時代精神は明かに基督教に敵するものであります、斯様な時勢に對し指導の責任を果すは實に至難であります、從て私は訓練ある指導者の必要を益す感ぜざるを得ませぬ。（此の篇は講演者が「護教」紙上に掲げしを承諾を經て轉載せるなり）

我等若し志させば歸り行く途はいと易し。只だ我等なして、罪が天父の家より我等を誘ひ行きし異郷を見棄てしめよ。かくも天父のわれに速かに歸らしめよ。（譯グリッツストン）

聖書の研究

人に關する聖書の教理

（根本的基督教と題する講義の第二回の大意を筆記せしなり。K）

神學博士　平岩愃保

基督一たび世に出て教へ給ふや神の觀念一變して單純にせられ清められ尊くせられ且同時に神が誠に近く懐かしく成りたる事は昨日述べたる通りである。而かも神に就ける觀念のみならず人間に就ける觀念も亦一變した。それは、

（一）人間は神の子女であるといふ教である。世に基督ほど人間一個人の價値を認めたるものはない。馬太傳十六章二十六節に『若人全世界を得とも其生命を失はゞ何の益あらん乎また人何を以て其生命に易んや』といふ言がある。一個人の生命の尊重なることは全世界も之に比するに足らぬといふ意味である。基督は斯の如く人間一個人の價値を認めて其の一個人の為に世に降り生命を捨てゝも惜しからずと思はれた。路加傳十五章一節より十節を見ると此事が明に記されてある。一百の羊の中失はれたる一の羊のため牧羊者が山を越え谷を渡り危險を冒して尋ねまはる如く、又女子が婚禮の時首に懸くる銀の装飾品の一を失ひて之を搜すが如く（日本譯の金錢とあるは英語の Pieces of Silver にして必ずしも金錢の謂に

あらず)、基督は一人の罪ある人の悔改の爲に勞苦を厭ひ給はぬのである。加之一個の罪ある人が悔改むれば天に於て喜がある。基督は是程に一個人の價値を尊重せられた。

然し一個人の價値を認めたるは基督のみではない。孔子が人は萬物の靈長なりと云へるは矢張り一個人の價値を認めたのである。釋迦の「天上天下唯我獨尊」はすべての個人を認めしたるものにて是又一個人の價値を認めたのである。人は各〻本我を持て居る。その本我を發揮さへすれば何人も釋迦たり基督たるを得る、否寧ろ釋迦基督以上になり得るといふ、此は即ち天上天下唯我獨尊の考へである。此の如く孔子釋迦の教は人が自重心を起すには甚だ力がある。然し其に伴ふ非常なる短所は傲慢心、自負心である。彼等は君子を尊めども凡夫を顧みず、小人と女子は養ひがたしと云ふ。

之に反して基督は人間一人の生命のため如何なる苦勞も厭はぬ。是即ち人間か神の子女なるが故である。實に神は人類の父である。主の祈りに於て基督は神を「天に在す我等の父」と呼ばしめた。神はたゞ高德なる人の父にあらず實に凡夫凡婦の父である。約翰傳二十章十七節には「我父すなはち爾曹が父わが神すなはち爾曹が神」とあり。基督は神と一體である事を證せられたが、之と同時に彼は神の子たる人類の一人を以て自ら任じた。彼は神の子と云はずして人の子と云ひ、人たるものは此の如きものであるといふ事を示された。彼を見たるものは父を見たと同時に人を見たのである。人間は神と同體なる者の中に認められるほど尊きものである事を基督自身に證明せられた。此の如く人は神の子女なりといふ基督の教の内には自重心と共に謙遜の念が含まつて居る。我は神の子なりといふ内には自ら自重の念生じ、又完全なる神を目的とすれば自ら謙遜の心が湧き出ず。次に神の子女の價値の内容は如何といふに、

神の子女とは單に身分の謂ではない。人間の發展上眞に價値があるから神の子女たる價値があるのである。即ち其は人間の可能性である。人間の可能性は殆んど測るべからざるものである。神の完全きが如く人も完全くなるといふ、此の概念の如き高きものは人類の概念の中にない。其のみならず人間は下の方へも可能性がある。上は神の子、下は惡魔の子。禽獸如何に害惡を逞しくすと雖も墮落せる人間の爲す如き事は出來ない。故に人類は下の方への發達も殆ど際限がないといふても宜しい。

(二)人は神の子女なれども現在の有樣は實に神の子女と稱するに足らざる罪人である。路加傳十五章十一節より三十二節にある話は福音の縮圖とも云ふべきものであるが、其のうちに人類の神の子と稱するに足らざる有樣を示して居る。神と人類とは親子もたゞならぬ關係があるので神は人類に萬物を與ふ。然し人類は己が自由を振舞ふて神の意に逆ひ放蕩息子の境遇になり果てたのである。然かし人間が神の子女と稱するに足らざる有樣は此處の話にある二人の兄弟の中弟の境遇のみではない。兄なる人も矢張り人類の一方面の人を表したるものである。兄は親の意を其の意として弟の歸り來るを

喜び祝ふならば名實共に實に美はしき子であり兄であるが、彼は弟の歸り來るを喜ばず父の之を喜ぶを心よしとせなかつた。基督の心には此の兄の如き罪人があつたのである。人類には二種の罪人がある、即ち一は顯明なる罪で一は潜伏せる罪である。孔子が不善を見て改むる能はず、善を聞て之を爲す能はずと云しは之即ち潜伏の罪である。又釋迦は神を知らざるが故に罪とは云はざりしも、心に潜伏せる煩惱のある事を云ふた。王陽明は山中の賊は平げ易く心中の賊は平げ難しと告白して居る。太田道灌の歌には『人知れぬあだに追はれて行くはてはともにつかれてふし〻ばの露』といふがある。皆是れ潜伏せる罪を表白したるのである。最後に保羅に就て云はんに、ガマリエルの門人なりし彼は品行方正の人なりしと見ゆ。然も彼は罪の羈絆に在る事を告白して居る。羅馬書七章十五節より二十四節を讀むと彼が如何に此の潜伏せる罪に困めるかがわかる。此の如く人間は一方に於て非常に尊いと共に一方に於ては又非常なる罪がある。基督は人間に就て此の二方面の事實を明に教へられた。

約翰傳の教訓一班

柏井生

余は羽田にて開かれたる夏期講習會の聖書研究の會に於て約翰傳第十二章第十三章を講じたり。文字の解釋は余の著「約翰傳研究」に詳なれば、此處には其の二章より學ばるべき實際上の教訓の一斑を記するに止むべし。

(一)艱苦の中に見出すべき安息　耶蘇十字架にか〻りたまふ一週間前ベタニヤに至り其處にてベタニヤの村人より饗應を受けられたり。其の時の樣子如何にも樂しく又心平にありしが如く見ゆ。實際然ありしならん。大なる苦ある時若くは苦みの來らんとする時眞に休み得る權利あるが如く感ぜらるは人情なり。夏の暑さ酷しきほど休み得る權利は安固を加ふ。試驗の後、病める時兵士戰場にありて戰爭なき時皆然り。說教家ロボルトソンの如き不治の病に罹り一切の責任を脫して病を養ひし時が最も幸福なりし時なりきと或人は云へり。是等の事幾分か耶蘇の精神の狀態を想ふに足るべし。之が爲に彼の苦みを輕く見るは思はざるの甚しきものなれども、大波瀾の中にありし平和を學ぶは不可ならず。

* * * * * * * * *

(二)善き事　マルタ價高き香油を携へ來りて耶蘇の足に塗れり。耶蘇は之を稱讃して我に善き事を行へるなりと云ひ給へり。(馬可一四〇六)この善と云ふ字のギリシャの原語は「カロス」とあり。この原語の意味はたゞ善きと云ふ意に止らず、美はしく見事にて立派なる意を表せり。同じ善と云ふ中にもあまり眞心籠らず、出來榮見事ならざる善あり。又百合の花の見事に咲ける如く、其の人の性情の遺憾なく發揮せられたる善あり。マリヤの爲せし善事は後者に屬す。凡そ贅澤を戒め節儉を奬勵するは善き事なり。然れど善き事には贅澤なる物を献くべし。良く考へ事に應じて最善の力を盡し最善の物を献くべ

し。耶蘇のカナにて水を酒に變じ若くは四千人に麪包を與へたる時の如き何れも分量も品質も豐かにありしと想はる。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（三）他人の善事に對する態度　ユダをはじめ十二弟子の或者がマリヤに對したる態度を見るに、おしなべて他人の善事に對する道宜しきを得るの難きを見る。其の道三つあり。第一は之に模倣する事なり。是れ悪しゝと云ふに非ざれども最上の道にあらず。人各々天分あり。男子は男子に相應はしき行爲あり。女子は又女らしき善事あり。マリヤの爲せし事は實に女心の美を發揮せるものなり。然ればとて他の弟子此の通りの事を爲す必要なし。男の弟子には又別に爲すべき善事あるなり。第二は之を批評して缺點を指摘することなり。弟子は此の第二の道を取りたるが故に誤りたり。反動、嫉妬、狹量等は人をして此の道を取らしめ易し。他の爲す善事が己れの趣味に合せず行徑を異にする故を以て之を排棄する者あり。此も亦非なり。畢竟己は彼と同じき事を爲さずとも強ち之を非難するに及ばざる理を知らざるより來る。別に第三の道あり。即ち他の爲す善を適當に嘆美して己は之に雷同せず、己に與へられたる本分を行ふにあるのみ。弟子等が取るべき道は第三の道にてありき。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（四）自から意識せるよりも以上の意味　マリヤは一心に耶蘇に對する感謝と敬愛の誠を表はすために此の事を爲せるなり。其の他に趣意あるにあらざりき。然るに耶蘇は、己が死する日近きが故にマリヤは葬る時に塗る油として之を用ひたるなりと云ひたまへり。耶蘇はマリヤ自からも知らざる意味を加へてその行を嘉し給へり。實に至り盡せる愛にあらずや。凡そ愛とは單に抽象的の感情に非ず、事に觸れてかく深切に他人の美を成すも其の一なり。マリヤとても明かには意識せざりしにせよ、本能的に耶蘇の死の時近きを感知し何か耶蘇のために及ぶ限りの事を爲たき情熱切を加へしならん。世に蟲が知らずと云ふ如き本能的の知覺あり。耶蘇は之を認め給へりと云ふも妨げなからん。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（五）驢馬の子に乘りし耶蘇　驢馬の子に乘る是れ平凡なる事なり。然るに豫言者ザカリヤの言に照せば耶蘇の此く爲せしこと重大なる意味を帶び來る。實際耶蘇の心中にはザカリヤの言ありしならん。現在にのみ生活する生活は淺き生活なり。過去未來の光を加へて見ることによりて初めて豐富なる意味を發揮し來るなり。耶蘇はメシヤとして己を發表したり。然してメシヤとして當然受くべき敬禮を受けたまへり。人は當然の事を要求し又受くるも愛の道なり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（六）心情と教訓　耶蘇の教訓は活版刷りにせる如く何時にても發し得べきにあらず。その時々の特別なる精神の狀態より特別なる教訓の出て來りしものと思はる。こゝにギリシヤ人が耶蘇の許に來りたる一條の話を讀むに其の説く所と彼の胸中に湛へられたる深き感情は其の根に於て相結ばれたるを見

出だすべし。耶蘇と道學先生の異なる點此處にあり。彼の教訓は其の精神に燃え立てる火焔より閃めき出づる光なり。如何に尊ふき眞理なりとも時と處を分たず口より發するにあらず。その心の有様の異なるに從ひて其の說き出づる教訓の方面亦其れぞれ異なる所ありき。

* * * * * * * *

(七)宇宙の法則にこもれる犧牲　『麥の一粒地に落ちて死なずば一のまゝにて留まらん、されど死なば多くの實を結ぶ』これ物質界に現れたる犧牲の法則なり。思想藝術の世界に於ても亦然り。米國の文豪ホオソルンは幽鬱に沈み易き氣質の人なりしが、かかる時筆を執りて書きしものは決して之を世に公にすることなかりしと云ふ。又米國の或る有名なる聲樂家の經驗を語れるを讀みしに、公衆の前に立ちて歌ふとき、個人的情緒の表れるを抑ふる爲に一方ならず苦心せりとありたり。何にても小き我を忘れ自己以上のものに己を獻ぜずば大なるもの丶氣高きものとなるを得ず。即ち己を棄てずんば新しき自己を獲ることを望むべからず。この大なる法則を人生の事實となし、活ける力となしたるものは耶蘇の十字架なり。

* * * * * * * *

(八)知識と愛　著者は第十三章の冒頭に書き起して曰く『踰越の祭の前イエス此の世を去りて父に行くべき時來れるを知り世に在りし己の民を愛し終極に至るまで之を愛せり』と。又第三節には『イエスは父彼に總てのものを授けしことと、神より來り神に歸ることを知り』と記したり。思へば意味盡きざるものあり。耶蘇の愛は盲目なる本能的の愛にあらずして、神を知り、己を知り、又人を知れる明なる心靈より發せる愛にてあるなり。パウロはピリピ書一〇九に『汝等の愛、知識と總ての識別の中にいよ〳〵增し加はりて最も優れたる事を辨へ』と教へたり。愛は知識によりて大くせられ、淸くせられ、又健全にせらる。然して此の如き知識はたゞ學問より得らるべき知識にあらずして、基督によりて與へられ養はる丶知識なり。

* * * * * * * *

(九)修養に於ける漠然と鮮明　ペテロが一度耶蘇の足を洗ふを拒み、其の必要を教へらる丶に及んで、『主よ我が足のみならず手と頭をも洗へ』と云ひしは、何となく根本的なるに似たれども、實はたゞ言はんがために言ひし如きものにて無意味の言たるを免れず。之に引きかへて耶蘇の云ひし言如何に穩當にして適切なるよ。先づ人は潔からず〳〵と思ひながら何如なる點に於て潔めるるべきか、如何なる處に最き力を用ふべきかと云ふことを研究せず、漠然の感覺に止め置くが故に、更に進歩の機會なし。故に主は教へて曰く、汝等は浴したるものとひとしく大體に於てすでに潔くなれり、たゞ足を洗ふ如く成る局部局部に力を用ひ、着々之を洗ひ潔むれば可なりと。これ一方には人をして心强からしめ、一方には又遲疑することなく向上革正の端を發してとを要求する教なり。我等も心靈の修養を漠然の間に閑漫に附することとな

く、鮮明と迅速を勉むべし。

說苑

禮式と品性

江原素六

第一禮式といふ者は時代の推移と共に、變遷する者で有ます、我日本の如きも、王朝時代より、鎌倉、室町、豐臣、德川等幕政の變化と共に同じく變化をいたしましたことは皆樣の能く御承知の通りて有ます、支那に於ても、春秋戰國の時代に於て、周の禮樂は、殆んど破毀せられましたが、沛公が漢帝の位に即かるゝや、叔孫通の建議によりて朝廷に於ける禮式を制定せられましたことは皆さんの御存じの通りで有ます始め沛公は、秦の繁文縟禮にいたく懲りたるを以て專ら簡易を旨とせられしを以て、宴會等の有ますときは、立所に泥醉いたしまして、互に口角泡を飛ばして、相爭ひ、鐵拳はおろかのこと、屢々拔刀をして柱礎などを擊破るといふ有樣で、何とも手の附けやうがないので有ます。

茲に於て叔孫通は、皇帝の侍從等と自分の書生弟子たち百有餘人と共に野外に於て熱心に諸禮式の演習をなしました、間もなく長樂宮といふ御殿が落成しまして諸侯群臣凡そ六百名以上の拜賀者が有ましたが、其時は悉く振恐肅敬せぬものはなく、其拜賀の後、一同へ酒を賜りましたが、酩酊して喧嘩口論等の無禮をなした者なく眞に整然たることで有ましたた皇帝も大に滿足せられまして、吾乃ち今日皇帝たるの貴きを知ると宣へられました。

其他世界各國ともに其時代の變遷に隨ひて夫々犯すべからざる禮式が定められぬことは有ませぬ、我帝國は御維新の御盛業に際し、朝野と曰はず、舊來の禮式は、玉石共に之を毀たんといたしましたが、今日に於ては、文明に適當なる諸禮式は漸く制定せられまして、官吏軍人の社會より人民相互の間に於ても、禮式の貴重なることを知るに至りまして、學校に於て諸禮と號して、之を敎ふる樣になりました、即ち禮式を重んずる國民は、秩序を重んずるの國民で有ます、秩序を重んずる國民の品性は必らず高尙なることを證せらるゝので有ます。

第二禮式は極めて必要の者であります、何となれば禮式は柔和深切なる潔き愛情が、他人に對して發する所の言語動作で有ます即ち人民相互の間に尊敬景慕恩愛を表はす所の者で有ます、即ち此相互親愛の潔き情操は、即ち人民相互日常の關係を整へまして、社會の聯絡を完うすることが出來ます、抑々人情は社會を好む者で有のみならず吾々人類は、社會を全く離るゝことは出來ぬもので有ます、一寸考へますと、人心の同じからざるは、其面の如しなどゝ申しまして、個人は到底個人の樣で有ます、然しながら、吾々人類には、同情といふ心が有まして、精神界は決して孤立の者では有ませぬ、

其故に禮式の區域は、極めて廣く有ます、即ち社會と社會に於ける外交的生活上の禮式、國家と國家との衝突軋轢を避くる爲めの、國際的禮式、即ち各國大使公使間に於ける關係なども、概して此禮式の部に屬するので有ます、

又此禮式なる者は、絶對的、及び實際的の法則の如き者でなく、つまり必要上の習慣に基きたる者で有ます、其故に禮式の概要は、確定して有ましても、其適用に就ては、多少斟酌の自由が有ます、即ち其臨機應變の自由の有る所に禮式が愈々貴く愈々喜ぶべきので有ます、即ち論語にも禮の用は和を貴となす、即ち其應用につきて、中庸宜しきを得まして、徒らに拘泥せざることを禮式の上乘といたすので有ます、然るに世間皮相の開化者流の人々は、此禮式を冷笑する者が有ます、併ながら此等の禮式が人類社會の平和を維持することて有ますならば、極めて貴きもので有ます、故に禮式を重んずることは、自然に其品性を高尚にする者で有ます、

第三禮式の實行に自から臨機應變の自由が有りといたしますれば、其宜しきを得んとするに大に常識と熟練を要するのて有ます、たとへば下流社會の婦人などが、他家を訪問するに食事の時間でも薄暮でも一向に頓著なく且つ徒らに長座をいたしたり、又は座敷の入口に狛狗の如く固く座して其家人の通行の番人をいたします漸くにして座敷に入れば障子襖壁などへ背中をば蠑螈の樣にひつたりとつけて座りて同じく其家人、通行の邪魔をいたします、少しく敎育ある婦人は交際又は禮式の精神は、他人の感情を害することはいたしませぬ、故に訪問の時間等にも注意をいたします且つ他人の座敷に座するには成たけ先方の下女其他の人が自分の後ろの通れる樣にいたすことが通例で有ます、また下流社會の婦人はただに他の家を訪問して常識の缺亡するのみでなく、自宅へ訪問の客人に對しても往々客人に迷惑を感ぜしむることが有ます、たとへば折角主人が客を座敷に座せしむるや、同室に充分の席場あるに拘らず、甚だ無意味に、次の間にて挨拶をいたすものが有ます、來人は止を得ず、急ぎ座を立ちて次の間まで來りて挨拶をせねばならぬので有ます、

要するに禮式は他人の感情を愉快ならしむるので有ますれば茶を進め食事の給仕など、つとめて優美に且つ敏活でなければなりませぬ、拘泥して愚圖〳〵することは蜈蚣の樣だと申して、頗る感情を害するもので有ます蜈蚣は至つてのろきもので有ますが、其曲り角は必らず眞四角に曲るもので有ます、箇樣のことは、中流以上の人には仝く不益の注意で有ますが、往々これに類することが無とは申されませぬ、ことに中流以上の家庭へ小間使、中働きと來りし人を訓育することは、中流以上の家婦の義務で有ます、既に他人に禮式を敎ふることは自然に自己の品性を高尚にするもので有ます。

第四禮式は人類社會の平和を維持する者で有ます故に其區域は頗る大なる者で有ます、故に之を大別して一種といたします、第一自ら進んで他を尊敬する者、第二彼に命じて我を尊敬せしむる所の者で有ます、更に又其第一を小分して正義の義務に屬する者と、景慕の徳に屬する者との二種といたし

ます、第二も同しく之を分ちまして訓育的の者と秩序的の者との二種といたします。

即ち或は父母兄姉を始じめ長官年長博學大家に對する禮式は正義の義務に屬するので有ませう而して更に身分の貴賤財産の貧富、學術智能の淺深等に拘らす、單に其人の人格高潔優雅にして不知不識之を畏敬するもは愛慕的禮式といふので有ませう、又彼に命じて、我を敬禮せしむる者は、父兄が子弟に命じて己れを敬禮せしめ、或は教員が生徒に命じて、師弟の禮式を行はしむる者は、專ら訓育の目的で有まして、要するに、子弟又は生徒の品性を陶冶して、幸福者たらしめんが爲めて有ます、又軍人社會、官吏社會に於ては、各其階級に應じて、敬禮の方式敬語の區別等嚴然として定まつて居ります、毫も之を犯すことは免しませぬ、即ち秩序を保つ爲めに最とも大切なる者で有まり、これら禮式の實行が遺憾なく出來ます人は、品性の立派なる人て有ます。

第五禮式の方式は人類社會は殆んど相同じ樣で有ます、たとへば人を敬するに頭を下げるとか禮を屈するとか腰を曲げるとか膝を折るといふ如き外面の形容より身分年齡の差によりて言語の使ひ方に區別あるが如き國風と時勢によりて多少の差は有ますけれども概して其方式は一致して居ります。

然らば言語の使用法や進退動作より飲食のことに至るまで相當の禮式を守ることは決して無用のことでは有ませぬ、殊に近頃學生出身者中には、其言語擧動の野卑なること意想外の人が有ます、物を履む踰く蹟く少しく長座するときは必らず片手で己が踵をなでる其不作法なることは實に言語道斷な者が有ます、維新前に於て中流以上の婦人は、毎朝手水を遣ひて薄化粧をいたします、半疊敷の胡座の上に、盥を直し湯を入れ兩肌を袒ぎまして、乳房の見えぬまでに衣紋をしめまして糠袋で貎より襟まで能く磨きますが、若し其際一滴でも水が胡座の上へ跳ねかしましたならば、非常に赤面したので有ますが、今日の女學生はそれは大變で有ます。

私が折々訪問する上流の家庭が有ます、其妻君の里方も教育に付ては頗る有名な人て有ますが、或時其家族と共に食事をいたしました其女學生出身の奥方が、澤庵の香物を三ケ月なりに喰缺きたまゝを小皿の醬油の海へ浮べて有りましたどうあつても優美とは申されませぬ。

其後少しく用談が有まして、其家を訪問いたしました、偶々姑と媳との衝突の時で有ました、姑曰く昨日食事の時、牡蠣と豆腐の汁のとき、身のみを食して汁をそつくり殘し、今朝は汁のみ吸つて豆腐の身をそつくり殘しましたから餘り不行儀て有る、孫共が見習うては能くないとて注意致しましたら泣いて怒りました云々。

小田原の北條氏康は其子氏政の食事をするのを見ていたく歎息して申されますには、北條家は氏政に至らば必らず亡ぶべし、何となれば今氏政が汁を飯にかけて一口二口食して又汁をかけだした、吾々には一日三度づゝ、一年三百六十日食事をなすのである少しく注意せば、茶にいたせ汁にいたせ、適宜の分量位は容易く熟練するのである、此の如き日に幾

度となく、出逢ことに不注意では、不注意が習慣、即ち第二の天性となる故に一朝大事あつて不注意にして必らず失敗すべしと果して滅亡いたしました、即ち日に三度一年一千九十五回も出逢食事の度ことに禮式に注意致しますれば其人の品性は期せずして高尚になります。

禮式應用の根本的主義は他愛的情操にあることを忘れてはなりませぬ即ち他人を愛するといふならば他人の感情を害せぬ樣にすることは申す迄も有ませぬ然らば第一に吾々の言語動作衣服に至るまで自然に反する樣のことは一切注意せねばなりませぬ、たとへば忌みたつぷりの人、柔弱なる風采、粗暴なる擧動、異樣なる衣服等誰でも快よく感ずる者では有ませぬ。

羅馬のシセロといふ學者は、凡そ二千餘年前の大學者で有ましたか其申されましたことに、凡そ人の德には、二つの種類がある、即ち一は優美の德にして、他は威嚴の德で有ると、人は男女ともこの二種の德を圓滿に具へねばなりませぬが、就中女子は優美の點に大に注意せねばなりませぬ、而してこの優美といふことも、外面の優美より內心の優美は更に大切で有ます、また婦人として最とも優美にして人を感化せしむる者は、柔順の德で有ます、兩親舅姑及び夫に對する眞正の柔順は優美中の最とも優美なる者で有ます。

いか程美人でもまたいか程學問あり才智が有つても、婦人として柔順の德が缺けておりましたなら、必ず人に卑しめられます、彼得書三章に『妻なる者に、其夫に服ふべし、若し敎に循はざる夫あらば、敎に由ず妻の行に由て循はん、そは爾曹の敬懼を以て、潔き行を爲すを見るに因てなり、爾曹の妝飾は髮を辮み、金を掛、また衣を著るが如き外面の妝飾に非ず、たゞ心の中の隱れたる人、即ち壞ることなき柔和恬靜なる靈を以て妝飾とすべし、此靈の妝飾は神の前に價高き者なり。』とあります。

即ち徒らに美服を飾ることは、禮式の精神に悖ますや身分不相應なる粗服を著くるも又同じく禮式の精神に戾ります、何となれば共に他人の感情に滿足を與ふる者では有ませぬ、元來自己の富有に乘して、汲々として外面の妝飾に心を悉はるも、己れ富有ならずして、自由に流行を追ふ能はざることを怨言人は共に高尚なる品性の人では有ませぬ。

第七終りに臨んで前申陳べましたことを約言いたしますれば、禮式の完成は職として智情意の圓滿なる活用を要するので有ます、何となれば、禮式の活用は、常識即ち才智がなければ出來ませぬ、また禮式は他人の感情に滿足を與へんとするもので有ますれば即ち深切てふ潔き情がなければなりませぬ、又自己の富有なるが爲めに汲々として外面の妝飾に心を奪はるゝことなく所謂富の誘惑即ち驕の惡慝に克つこと、己れ富有ならざるが爲に容易く流行を追ふ能はざることを歎くことなく泰然として自己の境遇に安んずると共に意志の强き人で有ます。

若し生れつき愛嬌に充ち、敎育によりて才智を長し、言語擧動一點の非難すべき點なく、他人に滿足を與へ得るとして

も、其內心に、他人を愛する深切なる眞心が有ませぬなら、其禮式は何等の價値はないと申ます、其表面が立派なれば立派なるほど、反つて瞞著となり、僞善となるので有ます。

故に吾々は交際家たらむとして、禮式に意を用ふるのではなく交際を完うせむ爲に、注意を用ふるので有ます、吾々人間は眞實なる交際によりて智識を增し、德を進め、幸福を得るので有ます、交際の間に生ずる利益は、たとへば電氣の如しだと申ます、電氣は陰と陽と孤立して居るときは、何等の働をなしませぬが、これらが和合すると、電信電話となりて音信を通じ、電車又は工場の原動力となりて利益を生ずるので有ます、故に淸き愛情に基ける禮式は理想的交際を完うし得るもので有ます、故に全く交際を嫌ふ人は幸福の人とは申せませぬ、此の如く禮式の根元は、他人を敬するので有ますれば、時としては他人の爲には多少の迷惑を忍ばねばならぬことが有ます。

兩三年前のことで有ました、陸軍々樂長某氏が、曾て佛國に滯在の時、たま〳〵公園に音樂會が有ました、紳士淑女が雲霞の如く集りました、其日天氣模樣甚だ宜しからず果して音樂半ばにして、ポツ〳〵降つて參りました、愈々歇みそうの景色で有ませぬ、然るに音樂師は、聽衆の去らざるに半途にて止めては、不敬と思ひ、聽衆はまた音樂師が止めざるに去つては不敬と思ひ肅然として聽て居りました、遂に其日の順序書を演奏し了つたといふことで有ます、然らば演說又は懇親會等に列したるとき、自己の便否のみによりて猥りに退席することときは、大に愼まねばなりませぬ。

文苑

花束

風江子

或る朝諏訪子は△△傳道會の一室で、悄然として獨り考へに沈み、時々太い嘆息を漏らして居た。其の美しい眼には淚の露が一杯になつて居る。

* * * * * * *

諏訪子は高等の敎育を受け、良家に育つた淑女である。殊に叔父の遺產を受けて、一生を豊かに暮することが出來、家には工學士の兄があるので其の方の責任もなく、自由に一身を處することの出來る幸福な身である。生來快活な氣質で、思ひ遣り深く、其の上何所へ出しても恥しくない容色を有つて、人づきも極めて好い。それで學校を卒業すると親戚のものから三四度も結婚の話を持ち込んで來た。然かし彼女はまだ氣が進まないから、暫らく其のやうな問題は御預けにして置いて下さいと避けて一向に首肯はず、突然父や兄の許可を得て傳道界に身を献げることに決心したのである。之を見た親戚のものは、其の突飛な所爲を怪しみ、遂には變りものとして敬遠主義を執るに至つた。けれど父は熱心な信者で

あるから、諏訪子が其の任に當り得るか何うかと心配はしたけれど、其の望むところを快く承諾した。兄は此の外に彼女が斯る決心をなす裏面に潜んで居る或る憐むべき理由を具さに知つて居るので、深い同情を以て之を賛成した。諏訪子は平生婦人傳道者なるものの弊を見もし聞きもして居たから、久しく躊躇して居たけれど、或る事情(之は云はない方が好いでせう、御推量を願ひます)から強い刺激を受け、生涯を神の爲めに献げ、人生の疲れや、罪に悶ゆる人の靈魂を慰め之に新しい生命を與へる大いなる事の爲めに、其の身を聖別せられんことを決心したのである。然かし彼女は△△教會の傳道局に屬することとはなつたけれど、些の手當をも受けず、一身上のことは自ら支へて、恰ど篤志看護婦のやうな鹽梅式に此の貧民窟の傳道會に遣はれ、專ら貧民間の傳道に從事するに至つた。

彼女が打ち悄れて物案じに堪へないで居たときは、此の事業に從ふ決心を起してから六ヶ月目のことである。其の間彼女は一生懸命に貧しい人の爲めに盡した。愛する基督に事ふる喜びに驅られて、骨身を惜まず、常に快活に、熱心に力を致した。然かし實際に當つて見ると、以前夢んで居たのとは餘程調子が違つて、人間の心といふものは中々頑固て、執拗けて、其の中堅に踏み込み、柔いところに觸れることは容易てない。已が理想は少しも實現せられない。誠心は誠心に通ずるといふけれど、罪惡に痲痺した靈魂は全く感覺が無くなつたのではなからうかとまて疑はざるを得なくなつた。まだ年が若くて、經驗がないから、其れて此んなのであらうかと、幾度も氣を取り直し、愛する主よ、此の弱き心を憐れみ、大いなる力を添へさせたまへと熱心に祈つた。然かし近頃になつて益す己が心盡しの效果の現はれないのを苦痛に感じ、或は是れは自分の使命でないのではなからうかと云ふ考へが起つて來た。今も斯る感じに堪へ切れず、太い嘆息を洩し、涙は自から膝を濡すに至つたのである。彼女は思ひ惑ふて、また神の賢き指導を祈り求めた。

祈り終ると同時に、誰か案內を請ふ聲が聞えた。諏訪子は電氣にても感じた如く身振ひして、靜に起ち立り、容を改めて入口に出た。すると一人の年增の婦人が年久しき貧苦に窶れた青白い面に微笑を漏らし、さつぱりした湯衣を着て立つて居る。其の手には白い薔薇の花束を持ち、馥郁たる香は四周に滿ちて居る。

室に招じて時候の挨拶をする。其の婦人の目は常になく凉しく輝いて、聲の調子まて冴へて居る。

「檜垣(諏訪子の姓)さん、悴が昨晩給料を頂いて歸りましたので、其のうちから此の花を買つて參りました。每日決して貴殿の御親切を忘れは致しませんけれど、御存じの通り何分手一杯な暮して御座いますから、何を致さうと存じましても思ふに委せませず、濟まない〳〵と心に咎めて居りました。私どもは隨分苦い目に遭ひますときにも、御蔭さまて力を得て何うにか彼うにか切り拔けて行けます。御禮には當りませんけれど何うぞ御受け下さいますやうに」。

『おや森さん、これを私に下さるの？。有り難う御座います。それでは折角ですから貴女の厚い御志を喜んで頂きますよ。まあ何んて綺麗ですこと。室内が好い匂ひで一杯になつて居ますよ。だけどね、私之が爲めに却つて貴女に御不自由をさせるやうなことはなからうかと心配して居ますの』。

諏訪子は常の如くに快活に心持よく話す。其の心には一種云ふ可らざる喜びが皷動して居るのである。森と呼ばれる婦人は實際色々必要なものがあるのを克己して、此の花を買つて來たのである。其の感謝の情の切なることは之を見ても明かである。

『其のやうなことは何んにもお仰つて下さいますな。貴女は假令私の悴が病氣をして苦んで居ますときに、夜通し看護して下さつたことを御忘れなさいましても、私は決して忘れることが出來ません。其の上暖い衣服を下さつたり、仕事を御世話して下さつたりした御恩が何うして忘れられませう。別して貴女、何のやうな苦しい中でも神樣に守つて頂くことを信じて安心が出來ますのは全く貴女の御導まで御座います。私共はほんとうに貴女の御蔭で人間らしくなりかけたので御座います。悴が昨晩給金を貰つて歸つて來て、母さん花か何か買つて檜垣さんに上げたいねと申すでは御座いませんか。あれも其んなに貴女のことを恩に着て居るかと思ひますと、私嬉しくて涙がこぼれましたよ。薔薇の赤いのでなく、白いのを撰びましたのは、私共の喜びが決して世の喜びでなく、靈のもので御座いますことを表はす積りでした。其んな事情で御座いますから只だ私共の志だけを御受け下さいまし』。

諏訪子は涙を浮べて其の可愛い心根を喜んだ。

彼女は之に勵まされて、其の午後は元氣よく訪問に出かけ、病めるものを慰め、貧乏に惱むものを勵まし、其の精神上の生命を皷舞した。色々な訴へを同情を以て聞き、共に祈り、共に讃美した。其の語るところは平生よりも一層深く相手の心に徹するやうに感ぜられた。

歸つて己が室に入ると先刻貰つた花が、意味深き敎訓を語つて居るやうに見える。諏訪子は之によりて己が信仰の足らなかつたことを戒められた。また彼女が失敗と思つたところに却つて大いなる成功のあることを敎へられた。且つ彼女が見舞ふところの貧民の間に何れほど愛せられて居るかを此の出來事によつて證明せられた。

其の夕諏訪子は傳道會の主任牧師夫婦を訪ふて、一伍一什を物語つた。すると牧師は『神は確かに私共とともに在すよ。忠實に之に事ふことが肝要です。貴女は今初穗を與へられた。之を神に感謝せねばなりませんね。また必ず次ぎの果を與へて下さるだらう』と云ひ、三人で此の薫しき花を與へられたことを神に感謝した。諏訪子は白い薔薇を常に胸につけて、此の喜びと訓めとを記念しやうと決心した。

編輯机上

なつ草

近刊の雜誌より暑中休暇に關するものなど二三を拔萃す、

規律ある生活　山脇房子

暑中休暇には不規律な生活をしてもよいもののやうに思うて居る人が多うございます。

たとへば平生は朝五時に起きましたものが、休暇中は六時七時に起きましたり、細帶を締めただらしのない姿でゴロゴロしてをりましたり、髮も、平生は毎朝結うてをりましたものが、一日二日おきに結うて蓬蓬と亂しておきましたり、平生は食事の時間をきめて食べてをりましたものが、都合次第の時間に食べたり、不攝生に間食をいたしたりするやうな人が多いやうに見受けます。

折角平素養つた良習慣を暑中休暇の間に悉く打毀して、不規律な不攝生なものとなつてしまうのは、まことに情ない次第ではございませんか。暑中休暇はただ學校の授業がお休みであると申すだけで、人として守るべき道、人としてしなければならぬことは、何時でも、如何なるところにおいても、人として生きてゐる間は決して決して『休暇』はない筈でございます。されば、暑中休暇中も、日常の生活は、平生と少しも變ることなく、何時も規律あり嗜みある立派な婦人として體面を保たなければなりません。

私は、以前四十日ばかり西洋人と避暑にまゐつたことがございますが、西洋人の避暑地の生活は實に規律正しいもので、朝は平常の通り必ず五時か五時半に起きます。家には料理人も給仕も多數使つてをる人人でも、避暑地へは大勢の雇人は連れてまゐりませんから、皆で臺所へ出て食事拵への手傳ひもいたします。いろいろの用事を片附けて、九時半から十一時半ぐらゐまでは、勉强をいたしたり、また一時間ぐらゐ海へなり山へなり行く人もあります。晝飯後もまた勉强でございます。尤も勉强と申しましても、讀書をする時もございますし、裁縫をいたす時もございますし、著書を書く時もございますし、畫を描く時もございます。(婦人世界)

米國婦人の銷夏法　荒川重秀

米國にては夏期は遠く相離れ居る親戚緣者の避暑かた〱相訪問して、互に異狀のなき事實を確むるの季節である。又は相隔離せる朋友知人が相見て平生の不沙汰を詫びるの時期である。僻地の叔母が都會の姪達を訪ね、都會の婦人が僻地の舊學友を訪ふことの夏期に於て多く爲さるる譯は彼等は平日に於ては家庭又は學校に於ける用務の爲めに、遠路旅行の餘暇を得ることが出來ないからである。又夏期に於て之を爲すは結局平生の慰勞にもなり、又時間の經濟的利用にもなるからである。

さて彼等が避暑かた〱親戚の許へ出掛けた後は日々如何樣なる事を爲して日を暮らすかと言ふに、彼等が親類緣者の家に滯在中は、其の擧止動作は恰も其の家族の如くに立ち振舞ひて、家婦の手傳を爲して食事や、洗濯や、裁縫や、子供の世話などしたり、日曜日には相携へて教會に同伴したり、其他萬事に付き、其動靜毫も家族の人々と相異ることなくして、少しも來客の如くに振舞はず、又來客扱にもされざるは、

我國の風と變りたることろなし、固より叔母の如き血族の間柄なれば、其の親類の家に滯在中其家族の間に混りて、彼の如くは立ち働くは東西相異なるところがない。

けれども然し學友とか又は普通の友人の如き間柄のものが、夏期に其の友人の家に滯在中も亦親類緣者の宅に厄介になると同樣に家族の人々の間に打ち混りて自由に立働くことあるは、余等日本人の眼には一寸不思議に見ゆるが、是が流石に自由平等主義の本場たる國柄だけありて、我國の如き窮屈のところなきところが、餘所の見る目にも誠に愉快に又羨ましきことである。（婦人くらぶ）

暑中休暇と家族の親しみ

三宅花圃

家庭の長上の人達は、日常の業務に追はれて、何か子供達と一緒になつて、何うといふやうな場合があまり多くないのですが、其業務から放れた避暑地などに行くと、いかにものびのびと子供と咄す事も出來、また果敢ない遊戯などもして、子供も樂しましめ、自分も老を忘れて慰さむ事があるものですから、子供達の目に物珍らかに別段に長上の有樣が身にしみて忘れらない事があるものです。ことに一家を借りてなど仕ふ時は、まま事のやうな臺所に、不完全な道具立て料理の實驗もし、入込まない出納の事ゆゑ、簿記も應用し、洗濯も海水着をはじめ、山地を跋渉した着類も濯いだりするには、誠によい機會だらうと思はれます。かういふ機會のないならば、家庭に長上と一緒にゐて、日頃學業の爲に、人手もかり勝で、一向に筆記や書物の上に許りおぼえてゐる家事の實驗する方が、生來のために、どの位勝る效果があるかしれませぬから、避暑々々と人眞似のやうに、山道海邊に放縱な生活をして、無益な費用を使ひ、何の益にも立ぬ事には憧がれぬ方がよいのです。（婦人くらぶ）

暑中の日課

棚橋絢子

昨年の夏は不意の用事がありました爲めに、讀書も出來ませんでした。今年の夏は昨年の埋草をするので一ぱいであらうと思ひます。別に海岸などに出掛けませんでも、娘の許に行きまして、ゴロ〳〵して遊んだり調べものをしたり致しますし又人から賴まれた時は出掛けても參ります。いつもこの位の事で、別に變つた事も御座いませんが。暑中は皆さんが遊ぶ積りで御出でになりますが、私は此の暑中が働き時と思ひます。洗濯すれば衣服は能く乾きますし、學校の方が御座いませんから、讀みたい本も讀む事が出來ると云ふ理由で、一年中の私が勉强時です。夏は朝のうちが涼しう御座いますから、早く起きまして、讀書を致しましたり、その他調べものをします。日中は暑いから、小供でも相手に遊んだり、また裁縫などもします。私は、夏晝寢は一度もした事がないのです。晝寢と云ふ事は餘りよい習慣でもありませんから、何も無理に晝寢をする必要もないと存じまして、まあ出來るだけは働らきます。夕方は行水でも致しまして、後雜誌でも見る位てすが、矢張雜誌でも讀みませんと、どうやら時代に捨てゝ行かれるやうな氣が致しますもので、これだけはひま〳〵に見て居ります。夜は蚊が出ますから何も出來ません。

（ムラサキ）

神聖なる勤勞

大英週報の問答欄を擔當して實際上のことと思想上のことと種々の間に、親切なる又適切なる答を與へつゝあるデビッド、

スミス氏が、最近の號に於て、中年に近き婦人の、繊弱き女の手一つに貧しき中に老ひたる父母を養へるが、日々の勞苦に堪へやらで、神を怨み世を墓なみて愬へ來れるに答へたる答の要領をかいつまんで記さんに、御身の困難は神と宗敎に關はる謬見より來り候。神は御身の友にて、御身が住家として與へし此美麗はしき世界にて御身に幸あれかしと願はれ候ことを、身にしめて篤と味はれ度候、げにや我等は此世の行者また寄寓者にて、我等の家庭は遙か彼方なる神の都、父の家にこれあり候、「此世は通り過ぐべき橋梁なれば、汝は構へて其上に住家を建つるなかれ」と耶蘇は敎へたまひしとこそ傳へられ候へ。されど、此世も神の造りたまひしものにて、より善き世界を我等のため備へたまへば、尚更途上に於て我等を慰めんとて神が與へし一切を……日の光も、道の邊の花も、出遭ふ人々も皆歡んで之を迎ふべき筈と存候。さればこそラビ、ヤコブも「此世界は來らんとする世界の玄關なり、汝は座敷に入らんために先づ玄關にて身仕度せよ」とこそ申し候ひつれ。我等が現在の生涯はより善きより高き生涯のための訓練敎育に候。さて現在の生活を造る要素は何ぞと尋ね候はゞ、御身はミレーの畵きたるアンゲラスを知り候はん。一面の馬鈴薯畑と勞働せる若き男女。我等が善く知れる田舍の景色に候。遙か彼方には村落あり、敎會の塔は高く天に聳へて夕映の空を飾り候。時は夕の祈禱の時とて、合圖の鐘が夕の雲を破つて響き候はば、二人の勞働者は農具を傍へに置き頭を垂れ手を組み合はせ靜に立ち申候。ヘンリー、ドラモンド嘗て申候。完全なる生涯の要素三あり、勞働、愛、宗敎是なりと。我等は先づ勞働せざるべからず。これは生活の基礎にて、神聖なるものに候。神の使命に候。されど勞働のみにては足り不申、之に愛を加へて人に仕ふる犧牲の生涯となさねば相成不申候。斯くてこそ勞働は聖なる勤務とこそなり候へ。博士グスリー嘗てエデンボローのカウゲートにて、一人の發育不充分なる少女が已が體ほどの赤兒をさも重たげに抱へたるを見て、側にすり寄り其頭を撫でゝ嘸や重からんといたはり尋ぬければ「チョッとも重かあありません、わたしの弟ですもの」と答へたりと聞き申候。神は御身に老ひたる父母を養ひ且慰むべき神聖なる務を與へられ候。大膽に柔和に、且愛を以て主の爲めに之を爲して聖名を榮め候へ云々。」(福音新報)

夏期講習會記事

女子青年會夏期講習會は七月十三日午後七時羽日湘要館樓上に於て開會せられたり。日本聖公會監督セシル氏の司會にて「神は凡てのもの丶内にあり又凡てのもの丶上にあり」との趣意にて話され來會者に新しき活力を與へぬ。續きて河井道子女史の歡迎の辭あり。まだ講習會に對する覺悟と希望を堅からしむ。マクドナルド女史は講習會の精神がキリストの精神をなすものなりと話され、此講習會に一層高く且つ確實たる意味を與へられたり。

十四日午前八時より開かれたる青年會事業協議會に於ては、宮城女學校及び共立女學校各青年會事業の報告あり、ミスウエストの話しありき。

十時より松永文雄氏の講演あり。其の原稿は別欄に揭げるが如し。

夕陽會

午後七時半宮川壽美子女史の講演ありき。其の大意は別欄に揭げあり。

十五日　五時半より開かれたる早天祈禱會に於ては遠く英國

に於ける萬國青年會大會の爲めに特別なる祈禱あり。
青年會事業の時に於ては河井道子女史より信者の教會に出席せざるべからざることに就て話さる。同時に個人の感化がいかに他人に及ぼす影響の大なるかを一層感ぜしめられたり。
盛岡市青年會事業、女子英學塾青年會等の報告ありき。
十時井深夫人の講話あり、『現時の傾向と青年等の心得』に題し吾人の責任の大なることを強く感ぜしめられたり。
氏は當時女子一般的傾向の腐敗せしを責め、同時に今後の女子はいかなる點に注意すべきかを語り、五六ヶ條を擧げてこま〳〵と説かれたり。
夕陽會　同夜は安井哲子女史の『價値ある生活』と題する講話ありき。(其の原稿は別欄に掲ぐ)
十六日　青年會事業に於て甲州生絲紡績會社の工女傳道につきての話しありき。
十時服部綾雄氏の日本の法律に於ける女子の位置と題する講演あり。其の大意を筆記せしもの別欄に見ゆるが如し。
二時より開かれたる各學校代表親睦會はとり〳〵に面白かりき。
七時より綱島佳吉氏の韓國の經營と傳道につきての氏の實驗談あり。吾々は遠く韓國の地に於ける日本人の經營するその事業に大なる興味を與へられたると同時に今日いかに彼地に傳道の必要なるかを知りて大なる傳道と祈禱の精神に充されたりと語らる。(記者曰く、談政治上のことに涉れるを以て此講演を掲載するを得ざるを遺憾とす)
十七日午前、午後二回植村正久氏約翰第一書につきて信仰的の講話ありき。
其の趣意は、キリスト教はこれを一言にして云へば眞のものを知るといふ意なり。時として吾々は感情に走り或は實行に走る時ありと雖ども此等の外に根本的根據を有せざるべからず。此根本を知らんと欲せば吾人は神を知らざるべからず。神の子世に來れり。此故にもし吾人にして眞のものを知らんと思はゞ先第一にキリストと知らざるべからず。之を知る時には吾人の心中には神の爲めに働かんとする一の生命と生ず。即ち活動こそ眞のキリスト教なれ。信者たるものは罪を知るといふ困難たる眞面目の經驗をなせざるべからず。キリスト教は祈禱によりて確信を得るを必要とす。キリスト信者にしてこの確信なき時には戰ふに際し冑を失へるものゝ如し。パウロはこれを救の冑といへり。これを得ん爲にはいかにすべきや。吾人利己的に求めば却てこれを失ふものとなるべし。神の兵として死に至るまで戰はんとの誠心こそ、この冑を得るの唯一の方法なれ。
キリスト教の眞理は信仰なり。神と懇意になるといふ意なり。神と相和するを信仰と名づく。吾人信仰を有すれば神の使命をなすにあたり、氣が利くに至る。以て吾人は徒に不平を鳴らさず、常に滿足して神の使命を果たすを得るに至る。これ即ち信仰の法なり。
祈禱とは日々凡てのよと神の思召にたゞして考へ、以て神の意志に感應するといふ精神にて活動するを祈禱と名づく。祈禱は人に生命を與ふ。人の爲の祈禱は以て傳道の萌芽ともいふべきものなり。キリスト教信者にして傳道の精神なき時には開かざる花の如く又味なき鹽の如し。故に吾人は立ちて神の爲に傳道するの精神に燃えざるべからざるなり。(同氏の講話は承諾を得ざりしかば殘念ながら掲載するを得ず。記者)
十八日　早天祈禱會は多くの姉妹と共に集り、力ある會なりき。特に一人の姉妹の祈禱の實際談は會衆に一種特別の力を與へたり。
九時よりの讃美禮拜あり。次いで井深梶之助氏の説教ありき。別欄に掲ぐるは其の大意なり。
午後二時より三時までは各團體の祈禱會開かれ。何れも霊に

滿されたる集會なりき。
午前七時鵜崎庚午郎氏の時代精神とキリスト教と題する講話あり。其の原稿は別欄に掲ぐ。
十九日　青年會事業に於ては何井道子女史の宗教文學の題する話しあり。つゞきてミスウエストの聖書研究法につきての話あり。次にミスアクーナルの萬國青年會事業の働きにつき日本の青年會の援助する必要等につきて話されたり。　十時よりの閉會演說は笹尾粂太郎氏來會なかりし爲め、平岩愃保氏演說せられたり。

毎日二組の聖書の研究あり。一は柏井園氏約翰傳につきて解釋せられ、他は平岩愃保氏「基督敎の根本眞理」を聖書に就きて說明せられたり。何れも有益なる研究にてありき。午後七時送別會を開く。此講習會の感化のいかに大なりしかは姉妹の感話によりて證明せられたり。

來會者は總數百七十二名にして、之を學校に分てば三十一校なりき。毎會出席者は百名前後より。カナダ女子青年會夏期講習會よりは祝電を寄せられたり。我等は此一週間信仰を養ひ、交情を温め、見聞を廣くし、多くの覺悟と奮發とを起し、感謝に滿ち、傳道の精神に燃えつゝ散會せり。（一會員報）

家庭に於ける傳道

講習會中家庭に於ける傳道と云ふ題にて七分間づゝ話せし折の大意

私ども先きに選ばれて信者となつた者が常に心掛けて居りまた爲すべき義務である處の眞の神樣の福音を一時も早く多くの人々に傳る爲には夏の休みこそ最も好き機だと思ひます。けれ共其傳道の仕方につきましては餘程注意をしなければなりません。家庭內の傳道には猶更の事と思ひます。若し不幸にしてその方法を誤りますならば折角の目的を達し得ないのみならず却て一家の不和を起す樣な事にもなりますから。

私の家は自分ながら感心する程樂しい家で御座います。けれ共公然キリストの信者となりましたのは私一人でして兩親は熱心な佛敎信者です。從て他の者はそれに準じて居ります私は常に家族の者に神樣の事を話したいと思ふて居ります、けれ共始めから六ヶ敷敎理や說敎じみた事は決して話しませんでした。出來得るならばまづ自分の心を修め行を愼んでそして皆の心を開き、それから機を見て追々と話しもし、また導びき度と心掛けました。

弟や妹達は二三年前から日曜學校へ出して居りましたが、子供達の唱ふ讃美歌は遂に母の注意を惹きまして、母は學校で習ふ唱歌とは趣きが異ふと言つて居ました。私は夜分母の暇な時を見計ひまして側に參り「神」と云ふ言葉の少ないので未信者にもよく意味の解る樣な讃美歌の二つ三つを唱つた事もありますが放蕩息子の歌などは大層母の氣に入つた樣でした。

もう一つ家庭內の傳道に大切な事は家人の信用を得る事だと思ひます。私は未信者の中の一人の信者ですから私の爲る事がどの樣な事でも例へばつまらぬ遊び事にしても凡て何か宗敎上に關係でもしてるかの樣に解されました。私が休暇に歸宅しますといつも一度は屹度私が頭となりまして弟や妹と一所になつて茶話會を催して兩親を招きます。餘興もいろいろ澤山いたしますが兩親の喜びは一方ではありません。斯樣な遊びを私は傳道の目的を以てするのではありませんけれ共兩親は其無邪氣な遊びて樂しいのがキリスト敎の餘德である樣に思ひ、私の歸宅して內に居りますのを喜ぶと同時にキリスト敎に趣味を持つ樣になりました以前にまして私を愛し信用するやうになりました。それ故例令少しの手落ちがあり或は

過ちが御座いましても意地惡く曲解される樣な事がありませんて何事も爲し易く今日では敎への事も話し易くなりました兩親は未だ信者にはなりませんけれ共惠み深き神樣は屹度私の家族を御救ひ下さることと信じて居ます。

行は言に優る力あるとは預て敎へられて居りますが、少しでも自ら努めて見ますと猶更深く感じられます。斯樣な遣り方は傳道の方法としては如何にも廻り遠くやうですけれど、是れは私が家庭の內で致して居る小さな經驗の一端て御座います。（女子英學塾Y. W.）

基督敎青年會の夏期學校

第二十回夏期學校は七月二十二日より二十八日まで東京青山學院に開かれたり。校長は井深梶之助氏、牧師鵜崎庚午郎氏にして講師は今井壽道、原田助、笹森宇一郞、植村正久、ギユリキ、バルトン、島田三郞の諸氏、他に聖書研究の組を九組設け吉崎彥一、千葉勇五郞、谷津直秀、柏井園、小畑久五郞、橫田貞治、秦庄吉、楢橋盛次郞、佐島啓助の諸氏之が指導者たり。來校者總數二百十人、內通劵所有者百五十九人、一回聽講者五十一人なりしと云ふ。夏期學校と同時に青年會同盟の第三回總會開かれ、今後三年間の事業の方針として左の四箇條を決議したる由なり。

一淸韓及び臺灣在住の日本人間に青年會事業擴張のこと、

二重なる市及び學生青年會の爲め會館及び寄宿舍の建設を奬勵すること、

三聖書研究を奬勵して傳道上の一勢力となすこと、

四青年學生間より將來直接傳道に從事する人の輩出せんことを祈り且つ奬勵すること、

女子青年界

○大阪ウヰルミナ女學校青年會

六月二日第二回役員會を開く、聖書研究會を隔週一回各級に於て開く事、年長者に對する態度に就て一層の注意を生徒に促すと、其他三四個條について議する所あり。

六月二日及び十六日、祈禱會、題　神聖なる愛、正き所、

六月九日　合併祈禱會　題　品性の基礎

六月二十三日　大阪西部メソヂスト敎會牧師日野原氏を聘して「婦人にあらまほしきもの」といふ題の講演會を開く、青年子女に對して適切なる勸告なりき。

○小石川傳道女學校青年會

集會の大略

講話會　一回　經驗會　一回　役員祈禱會　三回

祈禱親睦會一回　集會者總數　八十七名　內客員十四名

祈禱親睦會は十八日午後三時半より開かれたり、主を讃めまつる姉妹の熱誠なる祈禱ありて后互に打ちくつろぎて親しく語らひ、暑中休中の互の祝福を祈りて散會す。

○女子學院青年會

六月六日聖書研究會、趣意　エリザベツ及マグダラのマリヤの性格

六月十三日音樂禮拜

六月二十日聖書研究　サロメ（ヨハネとヤコブの母）キリストの衣にさはりし女

六月二十七日本校共勵會の招待を受けて荻原牧師より夏休みに注意すべき二の敎へを賜はる

一、謹みて友を選ぶべき事（馬太十〇十七）

二、何事を爲す時にも吾は是れ主の使女なりとの觀念を失はぬ事（路可一〇三十八）

○橫濱共立女學校

六月十日例刻より例會を開く。列席者は役員、傳道部、矯風部各委員及び數名の諸姉、協議決定せる所左の如し。

一、聖書研究會は永續の見込なし、當校に於ては特に敎師生徒間密接にして特別に會を設けて研究する無きも自由に質疑し得る機あるを以て不設にする事

二、傳道部及び慈善部を合併する事（夏期休業後）

三、退校會員に聖句を送る事否決

四、每月第四金曜日は慈善會の集りなりしが之を廢止して祈禱會のに充て從來の祈禱會のを矯風部のに充つる如く順次繰上げ第一金曜日は特に笹倉牧師の講話のみに充つる事

五、會員の部屬を廢して一旦會員たる者は何れの部なるを問はざる事

六、三階の祈禱室の名目を擴張して「靑年會室」となす事

七、月曜日の集り振はざる傾あるに依り靑年會委員先んじて感話或ひは祈禱する事

八、金曜日は集會後靑年會室に有志者の小集を催し共に祈禱せん事を祈禱部委員勸誘す

六月二十四日例刻より例會を開く、列席者役員以下七委員、報告左の如し。

一、今般傳道部委員長並木舜子姉の辭職

二、今年荏原郡穴守に開催さるゝ夏期講習會に出席する生徒よりの代表者は　本科四年生代表　原田よし子　三年生　山本ちゑ子　二年　加藤かつ子

○名古屋聖使女學院靑年會

會員は約四五十名、他に贊助員あり。會員には正會員と準會員との二つあり、役員は會長一名、副會長一名、書記二名會計一名なり。

定期集會は一ヶ月に一度土曜日に開く。市內の女學校の先生がその歷史或は音樂等に關する話あり。次て聖書の話あり閉會後互に親睦す。

又特別に每土曜日（靑年會開かるゝ日を除く）靑年會の催ほしにて英語會を開く。終りて來信者に對して會長の聖書の話あり。

臨時に遊戲講習の如きを開き、靑年を集め、東京より講師を招きて講話を開く、會後同じく聖書の話あり。或は一年に一度位近くの山野に運動會を催ほす。又年頭には新年會を催ほし、互の親密を計り、其の好機會に於て傳道しつゝあり。

聖使女學院は傳道を主とする學校なれば、靑年會の事業として特別に著しき活動をなす能はざるも、出來得るだけ此の方面に時間を用ひんことを務め居れり。名古屋は佛敎の盛なる所にて、傳道上の困難少なからず。諸姉の祈りのうちに記念せられんことを希望す。

○個人消息

河井道子女史　八月下旬渡英せらるべし。

マクドナルド女史　マシウ女史とともに輕井澤に避暑せらる。

荒木幸子夫人　女子靑年會地方委員となられたり。

こゝろの花

▲基督を信ずる一人の婦人が曾て或る家の乳母に雇はれた。其の主婦は病氣で寢て居る。其の娘は十五歲になるけれど基督に心を寄せず、年老つたら彼の方を信仰するわと云つて、氣儘な生活を送つて居た。一日母さんに差上げるのだと云つて綺麗な新しき花を持つて來た。乳母は之を見て其の美しいことを賞め、さて云ふやう『今は此の花をお母樣に差上げないで置きませうね。餘り新しくて綺麗で御座いますから。もう四五日待つてから差上げませうね』と。若き娘は此の不思議な言を怪んで、其の理由を尋ねた。すると乳母は『貴女が天の父樣になさることは恰度其の通りではありませんか。若くて美しい間は自分の勝手な生活をして、花が凋み、醜くなつてから御自分を神樣に献げる御考へてはありませんか』といつた。少女は此の説明を聞いて非常に心を動し、其れから決心して主の爲めに若い美しい生涯を献げることとなつたといふ。

▲基督の名に於て他人の勞を負ふ事は基督者の本領である。假令愛らしくないものでも、愛すべき價値のあるものであれば之を愛せねばならぬ。瑞典に一人の篤志の婦人があつて、病兒を世話する家庭を設けた。二十人ばかり收容したうちに三歲になる一人の小兒があつた。全く骨と皮とになつて居る上に腫物が出來て、夜も晝も泣き通して居る有樣であつた。婦人は出來るだけ骨を折つて此の兒の世話をしたけれど、何うも眞實に之を愛することが出來ず、時としては之を厭ふ心を顏色に現はしたこともある。或る日此の子を抱きながら椽側で居眠した。すると主耶蘇が其の側に來て『若し私が罪あるお前をも赦して之を愛するならば、お前は兩親の罪の爲めに苦しんで居る此の罪なき子を私の名によりて愛すべき筈ではないか』と云はるゝ夢を見た。彼女は驚いて眼を醒まし、しばらく幼子の顏を見て居たが、此の時俄かに新しい感情が起つて、其の子に温い接吻を與へた。其のとき幼子はにつこりと實に美しい微笑を漏らした。其の微笑は彼女が是れまで曾て見なかつたところの美しさであつた。其れからといふものは不思議なほど幼子の身體にも精神にも大いなる變化を生じた。一たび人間の温かい愛情に觸れてからと云ふものは、其の怒り易い泣虫のやうな幼子が如何にも穩しく優しく美しい子になつた。其れのみならず驚くべきことは婦人自身も其の後全く新しき人となつたやうに變つたといふことである。基督の名に於て他人に事へ、殊に愛らしからぬものを愛するに至つたとき基督者の眞の生命が發揮せられるものである。之を以て他人を救ひ、また自らをも潔められる。要するに傳道の動機は之に外ならない。

The Young Womens Christian Association Union of Japan

Mrs. H. Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A. G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Members
Miss A. B. West	Miss K. Tristram, Osaka
Dr. Tomo Inouye	Mrs. R. Araki. Osaka
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Koharu Nakajima	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss F. D. Denton, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Wynne Willson, Nogoya.
	Miss Charlotte De Forrest, Kobe.

Miss A. Caroline Macdonald, General Secretary
Miss M. L. Matthew, Tokyo Secretary
Headquarters:— 15 Dote Sanbancho, Kojimachi, Tokyo

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
一、「明治の女子」は一年分郵稅共金五拾錢一部郵稅共金五錢とす。
一、日本基督教女子青年會は青年女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見惠子
記録書記　エ、ジー、ルイス
會計　フィシャー
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督教同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員
エ、ビー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　サラ、エリス

地方在住委員
大阪　ケー、ツリスツラム　京都　佐伯小糸
京都　デントン　名古屋　ウインツイルソン
廣島　エヌ、ジー、ゲインス　神戸　デフチレスト
大阪　荒木幸子

日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エム、エル、マシウ

明治四十二年八月十五日發行 (毎月一回十五日發行)

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN

Vol. VI. *August 1909.* *No. VII.*

SUMMER CONFERE NUMBER.

(東京神田美土代町 三秀舍印行)